

口演，論文，著書など

保健学部

目 次

物理学・医用工学研究室	169	看護養護学Ⅰ研究室	183
臨床薬理学研究室	169	看護養護学Ⅱ研究室	183
分析化学研究室	169	臨床生理学・医用応用工学研究室	185
分子生物学的研究室	169	先端臨床工学研究室	185
解剖学・細胞生物学的研究室	170	生理・生体工学研究室	186
臨床血液学研究室	170	血液浄化療法学研究室	186
生理機能検査学研究室	170	循環器病態生理学研究室	187
免疫学研究室	171	病理学研究室	187
臨床微生物学教室	172	基礎理学療法学研究室	188
臨床検査学研究室	172	運動障害系理学療法学研究室	189
生体検査学研究室	172	神経発達障害系理学療法学研究室	189
細胞診断学研究室	173	内部障害系理学療法学研究室	191
臨床検査教育学研究室	173	精神保健学研究室	192
生理学研究室	173	母子保健学研究室	193
環境保健学研究室	173	運動器障害作業療法学研究室	194
公衆衛生学研究室	173	認知障害作業療法学研究室	194
心理学・社会福祉学研究室	174	中枢神経障害作業療法学研究室	195
健康教育学研究室	174		
救急救命学研究室	176		
神経生理学研究室	177		
医療安全管理学研究室	177		
基礎・在宅看護学研究室	178		
成人・高齢者看護学研究室	178		
助産学研究室	179		
小児看護学研究室	179		
母性看護学研究室	179		
地域看護学研究室	180		
精神看護学研究室	182		
医療科学Ⅰ研究室	182		
医療科学Ⅱ研究室	182		

物理学・医用工学研究室

論文

1. 川澄岩雄:第 58 回臨床検査技師国家試験の設問, 正答に対する疑問 (医用工学分野). 臨床検査学教育 Vol.4No.2:81-84,2012.
2. 川澄岩雄:医療技術者数の現状について. 杏林大学研究報告 教養部門 30:1-8,2013.

その他

1. 川澄岩雄:医用工学分野. 平成 24 年度 臨床検査技師模擬試験:東京, 医歯薬出版株式会社, 第 1 回;平成 24 年 9 月, 第 2 回;平成 24 年 11 月, 第 3 回;平成 25 年 1 月.

臨床薬理学研究室

口演

1. 細田香織, 横川彰朋¹, 柴崎浩美¹, 古田隆¹, 石井和夫¹ (東京薬大): 若年成人女性 5 名における血漿中 16 種イソフラボン抱合代謝物プロファイル. 第 37 回日本医用マクスペクトル学会年会, 名古屋, 平成 24 年 10 月 25-26 日.
2. 柴崎浩美¹, 細田香織, 横川彰朋¹, 石井和夫, 古田隆¹ (東京薬大): ヒトにおけるコルチゾールの分泌と CYP3A 代謝. 第 69 回西東京内分泌代謝研究会, 東京, 平成 24 年 12 月 3 日.
3. 新井美穂, 細田香織, 横川彰朋¹, 柴崎浩美¹, 古田隆¹, 石井和夫¹ (東京薬大): Equol-7-glucuronide-4'-sulfate および Equol-4',7-disulfate の同定. 日本薬学会第 133 年会, 横浜, 平成 25 年 3 月 27-30 日.
4. 杉山智恵, 細田香織, 横川彰朋¹, 柴崎浩美¹, 古田隆¹, 石井和夫¹ (東京薬大): HPLC-UV によるヒト尿中のバニルルマンデル酸, ホモバニリン酸, クレアチニンの同時定量法の検討. 日本薬学会第 133 年会, 横浜, 平成 25 年 3 月 27-30 日.
5. 矢崎綾菜, 細田香織, 横川彰朋¹, 柴崎浩美¹, 古田隆¹, 石井和夫¹ (東京薬大): ヒト尿中における女性ホルモン作用を有する Equol の代謝物 Equol-monoglucuronides の同定. 日本薬学会第 133 年会, 横浜, 平成 25 年 3 月 27-30 日.

論文

1. 宮崎友美, 三上和羽, 細田香織, 石井和夫: (S)-および (R)-Equol-diglucuronide の化学合成とヒト血漿中における同定. 杏林医学会雑誌 43: s27, 2012.
2. 宮崎千尋, 細田香織, 石井和夫: LC-ESI-MS/MS 法によるヒト血漿中イソフラボン代謝物プロファイルの解明. 杏林医学会雑誌 43: s28, 2012.
3. Shibasaki H¹, Hosoda K, Goto M¹, Suzuki A¹, Yokokawa A¹, Ishii K, Furuta T¹ (Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences): Intraindividual and interindividual variabilities in endogenous cortisol 6 β -hydroxylation clearance as an index for in vivo CYP3A phenotyping in

humans. Drug Metab. Dispos. 41: 475-479, 2013

著書

1. Ishii K, Hosoda K, Furuta T¹ (Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences): Chapter 13 Isoflavones: High-performance liquid chromatographic analysis of glucuronic acid- and sulfuric acid-conjugated metabolites of daidzein and genistein in human plasma and urine. Isoflavones: Chemistry, Analysis, Function and Effects (Food and Nutritional Components in Focus). Preedy V. United Kingdom, Royal Society of Chemistry Publishing, 2013. 196-217.

分析化学研究室

口演

1. 田中薫, 田村陽介: アリシン (allicin) の配座異性体の存在比率および安定構造の比率, 日本薬学会第 133 年会, 横浜, 平成 25 年 3 月 29 日.
2. 田村陽介, 田中薫: 分子軌道法によるカプサイシン (capsaicin) の最安定構造と配座異性体の検討, 日本薬学会第 133 年会, 横浜, 平成 25 年 3 月 29 日.
3. 岡田洋二, 吉澤清良, 丘島晴雄, 竹下一夫¹, 金森政人¹ (星製薬): クマザサエキス分画のフリーラジカル捕捉活性に関する研究, 日本薬学会第 133 年会, 横浜, 平成 25 年 3 月 29 日.

論文

1. Okada Y, Okajima H, Takeshita K¹, Kanamori M¹ (Hoshi Pharmaceutical Co., Ltd.): Kinetic study of *Sasa veitchii* extract as a radical scavenger and an antioxidant. J Food Sci 77: C1211-C1217, 2012.

分子生物学研究室

口演

学会

1. Aiso T, Gamou S: Overexpression of an antisense RNA ArrS enhances processing of a *gadE* mRNA and acid resistance in *Escherichia coli*. ASM2012 American Society for Microbiology, USA, June 17. 2012.
2. 蒲生忍: ミミズの生態学と分子生物学 - 我々はミミズについて何を知っているのか。第 39 回日本毒性学会学術年会・第 6 回アジア毒性学会学術集会シンポジウム「生態毒性試験生物の基礎研究」, 仙台, 平成 24 年 7 月 17 日.
3. 村田麻喜子: ヤマトヒメミミズの cDNA ライブラリーの作成～再生分化の新たなモデル生物の遺伝子発現プロファイルの構築を目指して～. 第 41 回杏林医学会年会, 三鷹, 平成 24 年 11 月 17 日.
4. 蒲生忍, 相見祐輝, 吉野秀朗, 佐藤徹, 岡明: 循

環器疾患遺伝子解析研究拠点の形成：肺動脈性肺高血圧症を中心に。第41回杏林医学会年会，三鷹，平成24年11月17日。

5. 村田麻喜子，蒲生忍：ヤマトヒメミミズの遺伝子発現プロファイルによる再生・分化に関する新規遺伝子の探索。第35回日本分子生物学会年会，福岡，平成24年12月11-14日。
6. 相磯聡子，神谷茂，米澤英雄，蒲生忍：大腸菌の酸応答におけるアンチセンスRNA ArrSの機能。第86回日本細菌学会年会，千葉，平成25年3月18-20日。

解剖学・細胞生物学研究室

口 演

1. 瀧上周，館野こずえ，長谷川瑠美，大迫俊二：ラット嗅上皮の再生における脳由来神経栄養因子BDNFの発現，第154回日本獣医学会学術集会，盛岡，平成24年9月14-16日。
2. Hirao A¹, Takigami S, Sugahara K², Tsukahara N², Yokosuka M³, Sugita S², Noda Y¹ (¹Jichi Medical Univ, ²Utsunomiya Univ, ³Nippon Veterinary and Life Science Univ): Morphology of the lateral nasal gland duct in domestic Gallus gallus domesticus. XVI International symposium on Olfaction and Taste, Sweden, June 23-27, 2012.

論 文

1. Makino N¹, Ookawara S¹, Madoiwa S¹, Ohta Y¹, Ishikawa T¹, Katoh K¹, Takigami S, Kanazawa T¹, Matsuo O², Ichikawa M³, Mimuro J¹, Sakata Y¹, Ichimura K¹ (¹Jichi Medical Univ, ²Kinki Univ, ³Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science): Morphological assessment of the luminal surface of olfactory epithelium in mice deficient in tissue plasminogen activator following bullectomy. J Laryngol Otol 126(11): 1114-1120, 2012.

受賞，特許等知的財産関係，学会主催，報告書

1. 大迫俊二：ZFNとrecombineeringを利用した遺伝子機能解析法の開発。科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究 課題番号：22650079）代表研究報告書

臨床血液学研究室

口 演

1. 関根名里子，西村伸大，東克巳：血液形態定量化による形態検査標準化の試み1. 普通染色法とその精度管理。第13回日本検査血液学会学術集会，大阪，平成24年7月28-29日。
2. 水越聡子¹，関根名理子²，西村伸大²，東克巳² (¹東洋公衆衛生学院，²杏林大・保)：フローサイトメトリーを用いたBCR-ABL fusion protein 検出の検討。第13回日本検査血液学会学術集会，

大阪，平成24年7月28-29日。

3. 坂本大典¹，東克巳² (¹杏林大学付属病院，²杏林大・保)：形体学的に非典型的な組織球の増加を認めた一症例。第13回日本検査血液学会学術集会，大阪，平成24年7月28-29日。
4. Nishimura N¹, Kamata M², Muto Y² (¹Faculty of Health Science, Kyorin University, Japan, ²Yamano College of Aesthetics, Japan) : Effects of aromatic essential oils on the physiological indicators. The 1st International Congress of Aromatherapy, Kyoto, August 31- September 2 2012.
5. Muto Y¹, Kamata M¹, Nishimura N² (¹Yamano College of Aesthetics, Japan, ²Faculty of Health Science Kyorin University, Japan) : Search of a scent which improves the work of aesthetics. The 1st International Congress of Aromatherapy, Kyoto, August 31 - September 2 2012.
6. 武藤祐子¹，鎌田正純¹，西村伸大² (¹山野美容短大，²杏林大・保)：美容作業に与える香りの作用。第19回日本未病システム学会，金沢，平成24年10月27-28日

著 書

1. 東克巳：フローサイトメトリー -原理と応用 -<新機能 抗体開発ハンドブック (監修：浜窪隆雄)>。東京，株式会社エヌ・ティー・エス，p430-436, 2012年8月28日
2. 東克巳：好中球アルカリホスファターゼ，直接クームス試験，間接クームス試験，Ham試験，赤血球抵抗試験，血液比重 <コンパクトガイド 検査値事典 (監修：中原一彦)>。東京，総合医学社，2012年11月21日

その他

1. いちよう塾：アロマセラピー基礎講座 ～エッセンシャルオイルを用いたリラクゼーション～ H12年6月30日，7月7日，7月14日，7月21日，7月28日，8月4日

生理機能検査学研究室

口 演

1. 佐野晃士¹，三輪隆¹，小池朋弘¹，藤原真梨子¹，島順子¹，原島敬一郎，今野一誠¹，田辺節¹，伊藤祿郎¹，小林高明¹，小田原雅人¹ (¹東京医科大学 糖尿病代謝内分泌内科)：インスリン抵抗性合併高コレステロール血症患者におけるエゼチミブ投与の有用性 血管内皮機能に及ぼす影響。第55回日本糖尿病学会年次学術集会，横浜，平成24年5月18-19日。
2. 司茂幸英：心電図波形の計測。平成23年度基礎から学ぶ生理研修会，東京，平成24年6月17日。
3. 三谷博子，石山陽事¹ (¹虎の門病院)：交感神経皮膚反応(SSR)を用いた新たな認知機能検査の検討—深吸気・音・視覚刺激によるSSR潜時

の比較一. 第59回日本臨床検査医学会, 静岡, 平成24年11月30日.

4. 石川真吾, 大谷菜々子, 三谷博子: 音・急速吸気刺激を用いた認知機能検査の基礎的検討—利き手, 非利き手の交感神経皮膚反応 SSR 潜時について—, 第4回大学コンソーシアム八王子, 東京, 平成24年12月8日.
5. 佐藤洋子, 井上千鶴, 三谷博子: 居眠り状態を覚醒レベルに移行させる低侵襲刺激の基礎的検討, 第4回大学コンソーシアム八王子, 東京, 平成24年12月8日.

著書

1. 司茂幸英 (分担執筆): 生理機能検査学実習書. 今井正編集, 東京, 医歯薬出版, 2012. p.190-195.

その他

1. 司茂幸英 (実技講師): 健康運動指導士講習会. 東京, 平成24年5月3日.
2. 司茂幸英 (実技講師): 平成24年度基礎から学ぶ生理研修会. 東京, 平成24年6月17日.
3. 司茂幸英 (資格認定試験委員): 緊急試験生理機能検査. 東京, 平成24年7月8日.
4. 司茂幸英 (実技講師): 健康運動指導士講習会. 東京, 平成24年8月19日.
5. 司茂幸英 (実技講師): 不整脈の読み方・考え方. 東京, 平成24年9月15日.
6. 司茂幸英 (実技講師): 健康運動指導士講習会. 東京, 平成24年11月25日.
7. 司茂幸英 (実技講師): 健康運動指導士講習会. 東京, 平成25年2月17日.

免疫学研究室

口演

1. 蔵田訓¹, 大崎敬子¹, 田口晴彦, 神谷茂¹ (¹杏林大学医学部感染症学講座): *Mycoplasma pneumoniae* 菌体抗原を用いた Th17 免疫高等についての解析, 第86回日本感染症学会総会, 長崎, 平成24年4月25-26日.
2. Oka K¹, Osaki T², Hanawa T², Kurata S², Okazaki M³, Manzoku T¹, Takahashi M¹, Tanaka M¹, Taguchi H, Watanabe T⁴, Inamatsu T⁵, and Kamiya S² (¹Miyarisan Pharmaceutical Co., Ltd., ²Infect Dis, Kyorin Univ, ³The Univ Tokyo Hosp, ⁴Med Lab, Kyorin Univ, ⁵Tokyo Metro Geriat Hosp): Increased germination activity of *Clostridium difficile* strains isolated from the patients with recurrent infection with *C. difficile*, The 35th Congress of the Society for Microbial Ecology and Disease, Spain, May 15-17, 2012.
3. 田口晴彦: マイコプラズマ肺炎の病態形成機序とその治療戦略, 第16回徳島小児感染症研究会, 徳島, 平成24年10月20日.
4. 田口晴彦: マイコプラズマ肺炎の病態形成機序, 第17回広島上気道感染症研究会, 広島, 平成24

年11月22日.

5. 和田薫子¹, 高橋志達¹, 大崎敬子², 花輪智子², 蔵田訓², 米沢英雄², 岡健太郎¹, 稲松考思³, 田口晴彦, 神谷茂² (¹ミヤリサン製薬, ²杏林大学医学部感染症学講座, ³東京都健康長寿医療センター): 本邦におけるヒト及び家畜から分離した NetB 毒素産生性 *Clostridium perfringens* の検出, 第46回無菌生物ノートバイオロジー学会総会, 伊勢原, 平成25年1月25-26日.
6. 新江賢, 蔵田訓¹, 神谷茂¹, 田口晴彦 (¹杏林大学医学部感染症学講座): キチンは IL-33 を介してアレルギー性気道炎症を誘導する, 第86回日本細菌学会総会, 千葉, 平成25年3月18-20日.
7. 蔵田訓¹, 大崎敬子¹, 米沢英雄¹, 花輪智子¹, Cynthia Zaman¹, 新江賢, 田口晴彦, 神谷茂¹ (¹杏林大学医学部感染症学講座): CD4⁺ CD62L⁺ T細胞分化に及ぼす *Mycoplasma pneumoniae* 抗原感作の影響, 第86回日本細菌学会総会, 千葉, 平成25年3月18-20日.

論文

1. Oka K¹, Osaki T², Hanawa T², Kurata S², Okazaki M³, Manzoku T¹, Takahashi M¹, Tanaka M¹, Taguchi H, Watanabe T⁴, Inamatsu T⁵, and Kamiya S² (¹Miyarisan Pharmaceutical Co., Ltd., ²Infect Dis, Kyorin Univ, ³The Univ Tokyo Hosp, ⁴Med Lab, Kyorin Univ, ⁵Tokyo Metro Geriat Hosp): Molecular and microbiological characterization of *Clostridium difficile* isolates from single, relapse, and re-infection cases. J Clin Microbiol 50; 915-921, 2012.
2. Morita H^{1,2}, Arae K, Ohno T², Kajiwara N³, Oboki K², Matsuda A², Suto H³, Okumura K³, Sudo K⁴, Takahashi T¹, Matsumoto K² and Nakae S^{2,3,5,6} (¹Keio Univ, ²Institute for Child Health and Dev, ³Juntendo Univ, ⁴Tokyo Med Univ, ⁵The Institute of Med Sci, The Univ Tokyo and ⁶PRESTO): ST2 Requires Th2-, but Not Th17-, Type Airway Inflammation in Epicutaneously Antigen-Sensitized Mice. Allergol Int. 61; 265-273, 2012.
3. Ohno T¹, Morita H^{2,3}, Arae K, Matsumoto K³, Nakae S^{4,5} (¹Tokyo Med and Dent Univ, ²Keio Univ, ³Institute for Child Health & Dev, ⁴The Institute of Med Sci, The Univ Tokyo, ⁵PRESTO): Interleukin-33 in allergy. Allergy. 67; 1203-1214, 2012.
4. Suzukawa M^{1,2}, Morita H^{3,4}, Nambu A⁵, Arae K, Shimura E⁶, Shibui A⁷, Yamaguchi S⁵, Suzukawa K⁷, Nakanishi W⁷, Oboki K³, Kajiwara N^{3,6}, Ohno T³, Ishii A³, Körner H⁸, Cua DJ⁹, Suto H⁶, Yoshimoto T¹⁰, Iwakura Y^{5,11}, Yamasoba T⁷, Ohta K¹, Sudo K¹⁰, Saito H^{3,6}, Okumura K⁶, Broide DH², Matsumoto K³ and Nakae S^{5,12} (¹Teikyo Univ, ²Univ California, ³Institute for Child Health and

Dev, ⁴Keio Univ, ⁵The Institute of Med Sci, The Univ Tokyo, ⁶Juntendo Univ, ⁷The Univ Tokyo, ⁸Menzies Research Institute, ⁹Merck Research Lab, ¹⁰Tokyo Med Univ, ¹¹CREST, and ¹²PREST): Epithelial cell-derived IL-25, but not Th17 cell-derived IL-17 or IL-17F, is crucial for murine asthma. *J Immunol.* 189; 3641-3652, 2012.

- 大野建州¹, 森田英明^{2,3}, 新江賢, 松本健治², 中江進^{4,5} (¹東京医科歯科大学, ²国立成育医療研究センター研究所, ³慶應義塾大学, ⁴東京大学医科学研究所, ⁵科学技術振興機構 さきがけ): IL-33による慢性アレルギー炎症, アレルギーの臨床, 32; 918-923, 2012.
- 森田英明^{1,2}, 新江賢, 大野建州³, 松本健治², 中江進^{4,5} (¹慶應義塾大学, ²国立成育医療研究センター研究所, ³東京医科歯科大学, ⁴東京大学医科学研究所, ⁵科学技術振興機構 さきがけ): IL-33によるマスト細胞・好塩基球の活性化とアレルギー性疾患, 炎症と免疫, 20; 340-350, 2012.
- 新江賢, 大野建州¹, 森田英明^{2,3}, 松本健治³, 中江進^{4,5} (¹東京医科歯科大学, ²国立成育医療研究センター研究所, ³慶應義塾大学, ⁴東京大学医科学研究所, ⁵科学技術振興機構 さきがけ): IL-33によるマスト細胞の活性化, 臨床免疫・アレルギー科, 57; 625-633, 2012.

著書 (翻訳)

- 田口晴彦, 他: 微生物学—基礎から臨床へのアプローチ (Microbiology—a clinical approach—Strelkauskas A J, Strelkauskas J, Moszyk-Strelkauskas D, Garland Science, 2010). 神谷茂, 河野茂 監訳, 東京, メディカルサイエンスインターナショナル, 2012. P.161-177.

受賞, 特許等知的財産関係, 学会主催, 報告書

- 新江賢: キチンによるアレルギー応答誘導機構の解析. 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 実施状況報告書 (平成24年度).

臨床微生物学教室

口演

- 森田耕司, 渡辺登: “感染症発生届”の微生物学関連科目補助教材としての有用性. 第7回日本臨床検査学教育学会学術大会, 名古屋, 平成24年8月22-24日.
- 森田耕司, 渡辺登: 本学大学院国際協力研究科国際医療協力専攻における教育と研究指導. 第7回日本臨床検査学教育学会学術大会, 名古屋, 平成24年8月22-24日.

著書

- 森田耕司: Rプラスミドの検出と接合伝達. 微生物検査学実習書 (臨床検査学実習書シリーズ). 森田耕司編. 東京, 医歯薬出版株式会社, 2012. p.159-164.

- 森田耕司: 病因・生体防御検査学. 臨床検査技師イエロー・ノート臨床編 (2nd edition). 芝紀代子編. 東京, メジカルビュー社, 2013. p.357-397.
- 日暮芳己, 森田耕司: 一般薬剤感受性試験, PK (薬物動態) / PD (薬力学). 臨床検査データブック2013-2014. 黒川清他編. 東京, 医学書院, 2013. p.496-502.

臨床検査学研究室

口演

- Komoda T, Oshima T¹, Bannai H (¹Meiji Co Ltd): Comparison of Immunochromatogram Patterns Described by Scanning of Immunochromatreader for Serodiagnosis of Chlamydia trachomatis Infections. The 112th American Society for Microbiology, USA, Jun 16-19, 2012.
- 関澤浩一¹, 加藤誠久², 田村高志, 黒澤健司³, 田辺秀之⁴, 岸邦和 (¹杏林大・保・健康教育学, ²杏林大・保・公衆衛生, ³神奈川県立こども医療センター, ⁴総合研究大学院大学): ヒト核型分析自己学習ソフトウェアの学習効果に関する評価. 第7回日本臨床検査学教育学会学術大会, 名古屋, 平成24年8月24日.
- 坂内久一, 菟田照子: 未病検査教育における長期フォローアップデータの活用と見えてきたもの. 第19回日本未病システム学会, 金沢, 平成24年10月27-28日.

論文

- Tanaka S¹, Honda K¹, Aoki A¹, Nitta K¹, Tamura T, Yoshioka Y², Oda H¹ (¹Tokyo Women's Medical Univ, ²Shiseikai Daini Hospital): An autopsy case of clinically un-diagnosed autosomal recessive polycystic kidney disease in 77-year-old male. *Pathology International* 62: 811-816, 2012.
- 関澤浩一¹, 加藤誠久², 田村高志, 黒澤健司³, 田辺秀之⁴, 岸邦和 (¹杏林大・保・健康教育学, ²杏林大・保・公衆衛生, ³神奈川県立こども医療センター, ⁴総合研究大学院大学): 染色体検査教育のための核型分析学習ソフトウェアの開発及びその評価. *臨床検査学教育* 5(1): 26-32, 2013.

生体検査学研究室

論文

- Muratsubaki H, Yamaki A: Profile of plasma amino Acid levels in rats exposed to acute hypoxic hypoxia. *Ind J Clin Biochem* 26: 416-419, 2011.
- Yamaki A, Muratsubaki H: Phenazine methosulfate decreases HIF-1 α accumulation during the exposure of cells to hypoxia. *Biosci*

Biotechnol Biochem 76: 1682-1687, 2012.

細胞診断学研究室

著書

1. 郡秀一: V細胞診4婦人科3性感染症. 顕微鏡検査ハンドブック臨床に役立つ形態学. 菅野治重, 相原雅典, 伊瀬恵子, 伊藤仁, 手島伸一, 矢富裕編, 東京, 医学書院, 2012. p.292-294.

臨床検査教育学研究室

口演

1. 島幸夫, 手塚敏春: 生化学実習を意義あるものに -5, 第7回日本臨床検査学教育学会学術大会, 名古屋, 平成24年8月22-24日.
2. 島幸夫: 肥満関連遺伝子の多型がメタボリックシンドロームの検査データに及ぼす影響の解析, 第19回日本未病システム学会学術総会, 金沢, 平成24年10月27-28日.
3. 萩原摩里¹, 齋藤雅人², 小林悦子², 太田史暁³, 島幸夫, 前田眞治⁴ (¹クラシエホームプロダクツ株式会社 ビューティケア研究所, ²クラシエホームプロダクツ株式会社 新規・OEMグループ, ³水素健康医学ラボ株式会社, ⁴国際医療福祉大学大学院リハビリテーション学分野): 水素(水素化マグネシウム)の未病入浴剤としての有用性評価, 第19回日本未病システム学会学術総会, 金沢, 平成24年10月27-28日.
4. 小野川傑, 松田直之¹ (¹名古屋大学大学院医学系研究科救急・集中治療医学分野): 敗血症性侵襲下での細胞死関連分子の臓器内局在, 第40回日本救急医学会総会, 京都, 平成24年11月13日.
5. 佐藤玄¹, 島幸夫, 福富俊之², 松田宗男¹ (¹医学部・生物, ²医学部・薬理): アナスショウジョウバエ精巣におけるキイロショウジョウバエ雌組換えに関与する遺伝子の発現解析, 第35回日本分子生物学会年会, 福岡, 2012年12月11-14日.

著書

1. 宮澤博: 尿ケトン体(アセトン体)検査. 検査技師による検査技師のための技術教本「一般検査技術教本」. 一般社団法人日本臨床衛生検査技師会編, 東京, 日本臨床衛生検査技師会, 2012, p. 35-37.

生理学研究室

口演

1. 高木賢司, 三田純子, 山田由里愛, 田中浩輔, 黒川信¹ (¹首都大・院理工・生命科学): 甲殻類クルマエビ (*Marsupenaeus japonicus*) 直腸の神経支配. 第65回日本動物学会関東支部大会, 東

京, 平成25年3月16日.

論文

1. 田中浩輔: 甲殻類の心臓反射とその神経機構. うみうし通信 77, 6-7, 2012.

環境保健学研究室

口演

1. 松塚雅博, 本田翔平, 網野秀一, 石川友美, 関健介, 後藤恭一, 金子哲也: 八王子市市街地における湧水水源と保全に関する水文考察, 環境科学会2012年会, 横浜, 平成24年9月13日.
2. 関健介, 後藤恭一, 松塚雅博, 金子哲也: 金属切削加工作業場での悪臭に対する微生物資材の効果機序に関する一考察, 日本公衆衛生学会第71回総会, 山口, 平成24年10月24日.
3. 松塚雅博, 後藤恭一, 関健介, 金子哲也: 甲府盆地の地下水系における施肥汚染負荷の滞留傾向について, 日本公衆衛生学会第71回総会, 山口, 平成24年10月24日.
4. 後藤恭一, 関健介, 松塚雅博, 金子哲也: 環境, 特に騒音評価とライブイベントのストレス影響の比較, 日本公衆衛生学会第71回総会, 山口, 平成24年10月24日.

公衆衛生学研究室

口演

1. 長谷川めぐみ, 白尾美佳: 居住形態からみた若年女子における「ダイエット」と「食行動」の関連. 第66回日本栄養・食糧学会大会, 仙台, 平成24年5月18-20日.
2. 長谷川めぐみ, 白尾美佳: 専攻学科からみた若年女性における「ダイエット」と「食生態」の関連. 第21回日本健康教育学会学術大会, 八王子, 平成24年7月7-8日.
3. Megumi Hasegawa and Mika Shirao: Taking of Vegetables and Green Tea among Young Women from the Viewpoint of Living Style and Accessibility to CVS. 16th International Congress of Dietetics. Sydney, Australia, Sept. 5-8, 2012.
4. Shoko Kinoshita, Mika Shirao, Megumi Hasegawa and Samuel Gildart: Determination and Comparison of Gamma-Aminobutyric Acid Contents of Brown Rice Soaked in Water and Commercial Germinated Brown Rice. 16th International Congress of Dietetics, Sydney, Australia, Sept. 5-8, 2012.
5. 角田透, 岡本博照, 松井知子, 照屋浩司: 都道府県別にみたアルコール飲料消費量と死因別死亡率との関連について. 第47回日本アルコール・薬物医学会, 札幌, 平成24年9月7-9日.
6. 松井知子, 大嶺智子, 岩見文博, 照屋浩司, 岡本博

照, 上村隆元, 角田透: 疾病性のある児童・生徒への対応—校内委員会活動における連携について—. 第71回日本公衆衛生学会総会, 山口, 平成24年10月24-26日.

7. 岩見文博, 楠田美奈, 照屋浩司, 片桐朝美, 太田ひろみ, 石野晶子, 大嶺智子, 加藤英世: 幼児の成長および生活習慣と骨量獲得との関連について. 第71回日本公衆衛生学会総会, 山口, 平成24年10月24-26日.
8. 三宅英司, 照屋浩司: バドミントン選手における疼痛の有無と部位に関する実態調査. 第23回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 横浜, 平成24年11月3-4日.
9. 照屋浩司 (講演): 子どもの健康～医療からのアドバイス～「骨を育てる子どもの生活習慣」. 平成24年度杏林医学会市民公開講演会, 三鷹, 平成24年11月17日.
10. 久保佑美子, 岡本博照, 山口芳裕, 照屋浩司, 和田貴子: 二次救急患者の入院に係る地理的要因の影響—平成17～20年度の救急搬送患者資料を用いた検討—. 第41回杏林医学会総会, 三鷹, 平成24年11月17日.

論文

1. 岡本博照, 菊川忠臣, 神山麻由子, 照屋浩司, 和田貴子: 都市部救急隊員の疲労と唾液アミラーゼ活性値. 民族衛生 78 (3): 61-75, 2012.
2. Manabe Tomoko, Teruya Koji, Uriuda Yozo, Yanagida Shigeki, Domoto Hideharu, Hara Miyako, Sakurai Yutaka: 若年成人の運動能力と中年の健康状態との関係 (Association between exercise capacity in young adulthood and healthy condition in middle age) (英語). 日本予防医学会雑誌 7 巻 2 号: 59-63, 2012.
3. Takemae Rieko, Uemura Takamoto, Okamoto Hiroteru, Matsui Tomoko, Yoshida Masao, Fukazawa Shinji, Tsuchida Kosuke, Teruya Koji, Tsunoda Tooru: Changes in mental health and quality of life with dental implants as evaluated by General Health Questionnaire (GHQ) and Health Utilities Index (HUI) (英語). Environmental Health and Preventive Medicine 17 巻 6 号: 463-473, 2012.
4. 照屋浩司: 発育・発達からみた骨量獲得に関する研究. 上原記念生命科学財団研究報告集 26 巻: 1-7, 2012.
5. 長谷川めぐみ, 齋藤俊昭: フードマイレージ・ゼロを目指して「八王子版食事バランスガイド」作成の試み. 杏林大学研究報告(教養部門)29巻, 9-20, 2012.
6. 照屋浩司 (随筆): コーヒーの効用 (12648430). 産業医学ジャーナル 35 (5): 71-73, 2012-09, 産業医学振興財団.

その他

1. 長谷川めぐみ, 津田和加子, 真田祐子, 橋爪利

加: ダイエットトリアージカード (リーフレット) 作成, 杏林大学地域交流支援事業. 2012年2月.

心理学・社会福祉学研究室

口演

1. 岩見文博, 楠田美奈, 照屋浩司, 片桐朝美, 太田ひろみ, 石野晶子, 大嶺智子, 加藤英世: 幼児の成長および生活習慣と骨量獲得との関連について. 第71回日本公衆衛生学会総会, 山口市, 平成24年10月24-26日.
2. 熊井利廣: 関係機関の連携と子どもを守る地域のネットワークの構築について. 特別区職員研修所専門研修, 東京, 平成24年12月11日.
3. 熊井利廣: 「虐待」を見つめ直してみませんか～虐待という言葉をめぐる～. 東京都社会福祉協議会北多摩南部ブロック会長役員研修会, 東京, 平成25年1月28日.
4. 熊井利廣: 「虐待」を見つめ直してみませんか～虐待という言葉と子育てをめぐる～. 多摩多胎ネットツインズマーケット, 東京, 平成25年3月2日.
5. 下島裕美: 現代大学生の未来展望. 日本心理学会第76回大会, 川崎市, 平成24年9月11-13日.

論文

1. 片桐朝美: 高齢者虐待研究の時系列変化に関する文献的考察. 杏林大学研究報告 教養部門 30 巻: 33-41, 2013.2.
2. 井上敦: 認知症高齢者とともに生きることをめざす「事実の創造と共有化」—認知症という「障害」を生きる高齢者への援助実践の視点を探る—. 淑徳大学大学院総合福祉研究科紀要. 第20号. 2013.3.
3. 下島裕美・佐藤浩一・越智啓太: 日本版 Zimbardo Time Perspective Inventory (ZTPI) の因子構造の検討. パーソナリティ研究 21 巻: 74-83, 2012.7.

著書

1. 井上敦「第7章地域密着型サービスの課題—小規模多機能を中心に」. 結城康博・早坂聡久編『介護福祉経営士テキスト3 介護福祉産業論—市場競争と参入障壁』日本医療企画. 2012.7.135-150頁.

健康教育学研究室

口演

1. 平岡厚, 関沢浩一, 白尾美佳¹, 岸邦和 (1 実践女子短大): 有機ゲルマニウム化合物 (Ge-132) による染色体異常抑制効果について—ブレオマイシンを用いた培養細胞系での検討. 第23回日本微量元素学会学術集会, 東京, 平成24年7月5-6日.

2. 松井知子：三鷹市教育委員会教職員（保健主任）研修「メンタルヘルスセミナー」, 三鷹市教育委員会, 平成 24 年 7 月 6 日.
3. 松井知子（講演）：杏林大学市民公開講演会「役立つストレスマネジメント～心と身体をつながり～」大学院講堂, 平成 24 年 7 月 7 日.
4. 松井知子, 森崎美奈子¹, 飯島美世子¹, 錦戸典子¹, 角田透²（¹東京産業保健推進センター, ²医学部衛生学公衆衛生学教室）：メンタルヘルス体制と産業保健スタッフのメンタルヘルス状態 - 看護職・心理職等を対象としたメンタルヘルス支援の向上に関する調査から -, 第 19 回日本産業精神保健学会, 平成 24 年 7 月 14 日.
5. 松井知子：平成 24 年度メンタルセミナー 3 回シリーズ 第 1 回「働く能力」の再生・向上を目指した職場復帰支援の実現みんなで頑張っている『職場復帰支援』を考える産業精神保健臨床心理の立場から, 医療法人社団こころとからだの元氣プラザ, 平成 24 年 7 月 25 日.
6. 松井知子：都立多摩桜の丘学園研修会「問題行動について行動分析的～アプローチの紹介～」, 平成 24 年 7 月 27 日.
7. 松井知子：東京都教育委員会 精神保健講習会『快適な職場づくり』を考えようー安全管理者等のメンタルヘルスケア対策ー, 三楽病院, 平成 24 年 8 月 3 日.
8. 朝野聡：薬物乱用防止教育の授業計画と評価 山梨県河口湖畔教育協議会教員研修会, 2012 年 8 月 7 日.
9. 関澤浩一, 加藤誠久¹, 田村高志², 黒澤健司³, 田辺秀之⁴, 岸邦和（¹杏林大・保健・公衆衛生学, ²杏林大・保健・臨床検査学, ³神奈川県立こども医療センター・遺伝科, ⁴総研大・先端科学）：ヒト核型分析自己学習ソフトウェアの学習効果に関する評価. 第 7 回日本臨床検査学教育学会学術大会, 名古屋, 平成 24 年 8 月 24 日.
10. 角田透, 岡本博照, 松井知子, 照屋浩司：都道府県別にみたアルコール飲料消費量と死因別死亡率との関連について. 第 47 回日本アルコール・薬物医学会, 札幌, 平成 24 年 9 月 7-9 日.
11. 朝野聡：ライフスキル形成とヘルスプロモーションスクール 杏林大学保健学部ランチョンセミナー, 2012 年 10 月 2 日.
12. 関澤浩一, 加藤誠久¹, 黒澤健司², 田辺秀之³, 岸邦和（¹杏林大・保健・公衆衛生学, ²神奈川県立こども医療センター・遺伝科, ³総研大・先端科学）：ヒト核型記載のための学習ソフトウェア開発. 染色体学会第 63 回年会, 旭川, 平成 24 年 10 月 5-7 日.
13. 櫻田淳¹, 北口和美², 大原榮子³, 大嶺智子, 上村弘子⁴, 加納亜紀⁵（¹埼玉県立大学, ²大阪教育大学, ³名古屋学芸大学短期大学部, ⁴岡山大学, ⁵聖泉大学）：大学間連携による養護教諭初任者支援フォローアップ研修プログラムの開発. 日本養護教諭教育学会第 20 回学術集会, 名古屋, 平成 24 年 10 月 7 日.
14. 関澤浩一, 加藤誠久¹, 黒澤健司², 田辺秀之³, 岸邦和（¹杏林大・保健・公衆衛生学, ²神奈川県立こども医療センター・遺伝科, ³総研大・先端科学）：ISCN2009 に基づいた染色体構造異常を伴うヒト核型分析自己学習ソフトウェアの開発. 日本人類遺伝学会第 57 回大会, 東京, 平成 24 年 10 月 24-27 日.
15. 松井知子, 大嶺智子¹, 岩見文博², 照屋浩司, 岡本博照, 上村隆元, 角田透（¹杏林大・保・健康教育, ²杏林大・保・公衆衛生）：疾病性のある児童・生徒への対応一校内委員会活動における連携について一. 第 71 回日本公衆衛生学会総会, 山口, 平成 24 年 10 月 24-26 日.
16. 岩見文博¹, 楠田美奈², 照屋浩司, 片桐朝美³, 太田ひろみ², 石野晶子⁴, 大嶺智子⁵, 加藤英世⁴（¹杏林大・保・公衆衛生, ²杏林大・保・看護養護教育, ³杏林大・保・心理 / 社会福祉, ⁴杏林大・保・母子保健, ⁵杏林大・保・健康教育）：幼児の成長および生活習慣と骨量獲得との関連について. 第 71 回日本公衆衛生学会総会, 山口, 平成 24 年 10 月 24-26 日.
17. 松井知子：宮崎県臨床心理士会研修会「産業領域におけるメンタルヘルスの理解と体制づくり～心理職の果たす役割～」, 2012 年 10 月 28 日.
18. 松井知子：関東甲信越防災ケアサポーター研修「重度被災労働者の方及びそのご家族のメンタルヘルスケア」, 平成 24 年 10 月 30 日, アルカディア市ヶ谷.
19. 松井知子：独立行政法人労働者健康福祉機構 産業保健調査研究発表会「産業保健スタッフ養成のためのメンタルヘルス教育プログラムの開発及び検証」, ソリッドスクエアホール, 平成 24 年 11 月 2 日.
20. 平岡厚, 近藤浩文¹, 関澤浩一, 岸邦和（¹（株）バイオリサーチ）：悪性黒色腫細胞の培養細胞系における内因性チロシナーゼとドーパを利用した, アリールスルフィン酸塩によるドーパキノンのアリールスルフォニル誘導体化. 第 49 回ペプチド討論会, 鹿児島, 平成 24 年 11 月 7-9 日.
21. 朝野聡：生活へのユーモアとライフスキル. 神奈川県介護福祉士会研修会, 平成 24 年 11 月 17 日.
22. 平岡厚, 関澤浩一, 岸邦和：アリールスルフィン酸塩による悪性黒色腫細胞への増殖抑制効果に及ぼすチロシナーゼ基質の影響. 第 133 回日本薬学会大会, 横浜, 平成 25 年 3 月 28-30 日.
23. 松井知子：羽村市公立小学校・中学校研修「保護者からの相談についてー心理的な面の留意点, 羽村市教育委員会, 平成 25 年 2 月 7 日.
24. 松井知子：新任者のための産業保健メンタルヘルス業務の解説～3 時間プログラム～「メンタルヘルス業務に活かす面接指導の技術」. 第 39 回日本産業精神保健学会研修セミナー. 東京,

平成 25 年 2 月 21 日。

25. 松井知子：練馬区副校長会「教職員のメンタルヘルス～事例対応における留意点・事例検討」練馬区教育委員会，平成 25 年 2 月 22 日。
26. 平岡厚，関澤浩一，岸邦和：アリアルスルフィン酸塩の悪性黒色腫細胞への増殖抑制効果に及ぼすチロシナーゼ基質の影響，横浜，平成 25 年 3 月 28-30 日。

論文

1. 平岡厚：「健康に良い」と宣伝されている水製品類の実態の検討。杏林医学会雑誌，43(3)，17-26，2012。
2. Takemae R, Uemura T, Okamoto H, Matsui T, Yoshida M, Fukazawa S, Tsuchida K, Teruya K, Tsunoda T: Changes in mental health and quality of life with dental implants as evaluated by General Health Questionnaire (GHQ) and Health Utilities Index (HUI), Environ Health Prev Med. 17(6):463-73, 2012.
3. Hiraoka A, Kondo H¹, Sekizawa K & Kishi K (¹Biores Inc): Arylsulfonyl derivatization with arylsulfonates of dopaquinone employing endogenous tyrosinase and dopa. Peptide Sci 2012, 119-122, 2013.
4. 関澤浩一，加藤誠久¹，田村高志²，黒澤健司³，田辺秀之⁴，岸 邦和 (¹杏林大・保健・公衆衛生学，²杏林大・保健・臨床検査学，³神奈川県立こども医療センター・遺伝科，⁴総研大・先端科学)：染色体検査教育のための核型分析学習ソフトウェアの開発及びその評価。臨床検査学教育 5(1)：26-32, 2013.
5. 平岡厚：パーソナル・ローエルの「オカルト・ジャパン」について (第 15 報)。杏林大学研究報告教養部門 30: 56-63, 2013.
6. 朝野聡，小林優子，物部博文，山田浩平中学生のユーモア志向とストレスコーピング，杏林大学研究報告，29,39-51,2012
7. 山田浩平，朝野聡，物部博文：対人葛藤場面での断り行動に対する自己効力感と社会的スキル及びアサーティブな態度，ユーモア対処との関わり，学校保健研究 54(3)，203-210, 2012.

受賞，特許等知的財産関係，学会主催，報告書

1. 関澤浩一，加藤誠久¹ (¹杏林大・保健・公衆衛生学) [特許取得]：核型分析学習プログラムおよび核型分析学習装置，染色体画像切り出しプログラムおよび染色体画像切り出し装置 (特許第 5121074 号)，特許権者：学校法人杏林学園，登録日：平成 24 年 11 月 2 日。
2. 松井知子 (代表研究者)，森崎美奈子¹，飯島美世子¹，斎藤照代¹，角田 透¹，錦戸典子¹，松島尚子¹ (¹東京産業保健推進センター)：現場ニーズに基づいた，事業所担当者のためのメンタルヘルス対策支援ツールの開発，独立行政法人労働者健康福祉機構 平成 23 年度産業保健推進セ

ンター調査研究報告書

3. 松井知子：「最近職場で気になる社員の問題：事例紹介と対応方法：学習障害 (LD)，注意欠陥障害 (ADD, ADHD) が疑われる事例④」，東京経営者協会報，No.74, 2013.
4. 今野洋子¹，大原榮子²，大嶺智子，岡田加奈子³，上村弘子⁴，古賀由紀子⁵，櫻田淳⁶，西岡かおり⁷，林照子⁸，矢野潔子⁹ (¹北翔大学，²名古屋学芸大学短期大学部，³千葉大学，⁴岡山大学，⁵九州看護福祉大学，⁶埼玉県立大学，⁷四国大学，⁸園田学園女子大学，⁹活水女子大学，)：教育課程 (カリキュラム) 検討委員会報告 教育職員免許法「養護に関する科目」の提案ならびに大学院教育の現状，日本養護教諭養成大学協議会事業活動報告書 (2011 年度)，2012 年 9 月 7 日。

その他

1. 堀川浩之，弓桁亮介，朝野聡，加藤朋之，藤本俊，佐藤三千雄：幼児の運動能力と足把持力との関連性，体力科学 61 巻 6 号 651, 2012.

救急救命学研究室

口 演

1. 岡本博照¹，田村真美²，神山麻由子，細田武伸³，和田貴子 (¹杏林大・医・衛生学公衆衛生学，²杏林大・大学院・国際研究協力科，³鳥取大・医・社会医学健康政策医学)：救急隊員の勤務状況とストレス - 第 10 報 東日本大震災派遣消防職員の惨事曝露状況 - . 第 15 回日本臨床救急医学会総会，熊本，平成 24 年 6 月 17 日。
2. 田村真美¹，岡本博照²，神山麻由子，細田武伸³，和田貴子 (¹杏林大・大学院・国際研究協力科，²杏林大・医・衛生学公衆衛生学，³鳥取大・医・社会医学健康政策医学)：救急隊員の勤務状況とストレス - 第 11 報 東日本大震災派遣消防職員のメンタルヘルス - . 第 15 回日本臨床救急医学会総会，熊本，平成 24 年 6 月 17 日。
3. 和田貴子，岡本博照¹ (¹杏林大・医・衛生学公衆衛生学)：大都市部の救急隊員の勤務状況と疲労について - 第 4 報 東日本大震災派遣隊員のメンタルヘルス - . 第 40 回日本救急医学会総会，京都，平成 24 年 11 月 14 日。(ポスター)
4. 和田貴子：産婦人科救急，第 40 回日本救急医学会総会，京都，平成 24 年 11 月 14 日。(座長)
5. 神山麻由子，岡本博照¹，和田貴子 (¹杏林大・医・衛生学公衆衛生学)：消防官のメンタルヘルスに悪影響を及ぼす要因についての検討。第 41 回杏林医学会，三鷹，平成 24 年 11 月 17 日。
6. 久保祐美子，岡本博照¹，山口芳裕²，照屋浩司³，和田貴子 (¹杏林大・医・衛生学公衆衛生学，²杏林大・医・救急医学，³杏林大・保・公衆衛生学)：二次救急患者の入院に係る地理的要因の影響 - 平成 17 ~ 20 年度の救急搬送患者資料を用いた検討 - . 第 41 回杏林医学会，三鷹，

平成 24 年 11 月 17 日.

論文

1. 岡本博照, 菊川忠臣, 神山麻由子, 照屋浩司, 和田貴子: 都市部救急隊員の疲労と唾液アミラーゼ活性値. 民族衛生 78(3); 61-75, 2012.

著書

1. 和田貴子; 16. 環境要因 疾患 中毒, 温熱・寒冷疾患, 4) 温熱・寒冷による疾患 (1) 温熱による疾患一熱中症, (2) 寒冷による疾患, a 偶発性低体温症, b 凍傷. 内科学第 10 版, 矢崎義雄総編集. 東京, 朝倉書店, 2013. p.2357-2360.

その他

1. 和田貴子, 神山麻由子, 久保佑美子, 久米梢子, 岡部綱好; 舌咬傷と心肺蘇生法講習, 小金井警察署, 2012.12.4.

神経生理学研究室

口演

1. Yoshihara S.¹, Ichikawa D.², Kita T.³, Takahashi M., Kawakami T.⁴, Yamamoto T.³, Kato Z.⁵ (¹ St. Marianna Univ,² Toyo Univ, ³ Musashino Art Univ, ⁴ Tokyo Gakugei Univ, ⁵ Aichi Mizuho Univ): A study of imaging time of professional golfers and amateur golfers, 17th ECSS Congress, Bruges, Belgium. Jul. 4.2012.
2. Kita T.¹, Koyama S.², Takahashi M., Yoshihara S.³ (¹ Musashino Art Univ, ² Teikyo Univ. of Science, ³ St. Marianna Univ): Survey of manner code violations observed at golf course in Japan, The 12th Asian Society of Adapted Physical Education and Exercise Symposium, Hong Kong, China, Aug.9.2012.
3. 高橋宗良, 北徹朗¹, 吉原紳² (¹ 武蔵野美術大学, ² 聖マリアンナ医科大学): 大学におけるゴルフ授業受講者の技術的課題, 日本ゴルフ学会第 25 回記念大会, 鹿児島, 平成 24 年 10 月 27 日.
4. 吉原紳¹, 北徹郎², 高橋宗良, 橋口剛夫³, 小山真一³, 一川大輔⁴ (¹ 聖マリアンナ医科大学, ² 武蔵野美術大学, ³ 帝京科学大学, ⁴ 東洋大学): ゴルフ場の安全対策: 九州地区ゴルフ場へのアンケート調査による事故の実態と予防対策についての検討, 日本ゴルフ学会第 25 回記念大会, 鹿児島, 平成 24 年 10 月 27 日.
5. 吉原紳¹, 北徹郎², 高橋宗良 (¹ 聖マリアンナ医科大学, ² 武蔵野美術大学,): プロゴルファーのイメージングタイム - 石川遼のイメージングタイムの分析 -, 日本ゴルフ学会第 25 回記念大会, 鹿児島, 平成 24 年 10 月 27 日.
6. 北徹郎¹, 吉原紳², 高橋宗良, 橋口剛夫³, 小山真一³ (¹ 武蔵野美術大学, ² 聖マリアンナ医科大学, ³ 帝京科学大学): 大学ゴルフ授業を介した「生涯スポーツとしてのゴルフ」への誘いは「コースラウンド経験」が重要である, 日本ゴルフ学

会第 25 回記念大会, 鹿児島, 平成 24 年 10 月 27 日.

論文

1. 高橋宗良, 日本泳法に見る安全水泳の教育内容に関する研究. 野外教育研究 15 (1): 33-44.2012.

著書

1. 高橋宗良: 自己保全能力を養う「水泳」. 動きの「感じ」と「気づき」を大切にしたい水泳の授業づくり, 細江文利ほか (編), 東京, 教育出版, 2012. p.157-164.

その他

1. 高橋宗良: 水球における垂直方向, 水平方向のジャンプ動作, インタビュー記事, 月刊トレーニング・ジャーナル, 2012 年 10 月号, 28-31.

医療安全管理学研究室

口演

1. 川村治子: 医療安全. 伊勢日赤医療安全講演会, 伊勢, 平成 24 年 4 月 5 日.
2. 川村治子: 医療事故防止のために知っておくべきこと. 横須賀共済医療安全講演会, 横須賀, 平成 24 年 6 月 30 日.
3. 川村治子: 医療安全 注射事故防止と転倒転落事故防止. 大分県看護協会講演会, 大分, 平成 24 年 7 月 20 日.
4. 川村治子: 看護師の注射事故防止. 保健学研究科講演会, 三鷹, 平成 24 年 7 月 31 日.
5. 川村治子: 医療事故防止のための必須知識. 宮崎県看護協会講演会, 宮崎, 平成 24 年 9 月 15 日.
6. 川村治子: ヒヤリハット事例から学ぶ医療事故防止～知っておきたいピットフォール～. 東京病院医療安全講演会, 清瀬, 平成 24 年 9 月 18 日.
7. 川村治子: これだけは知っておきたい看護師の直接行為による医療事故防止. 三鷹市医師会講演会, 三鷹, 平成 24 年 11 月 7 日.
8. 久保佑美子, 岡本博照¹, 山口芳裕², 照屋浩司³, 和田貴子⁴ (¹ 杏林大学医学部衛生学公衆衛生学, ² 杏林大学医学部救急医学, ³ 杏林大学保健学部公衆衛生学, ⁴ 杏林大学保健学部救急救命学): 二次救急患者の入院に関係する地理的要因の影響 - 平成 17～20 年度の救急搬送患者資料を用いた検討 -, 杏林医学会, 三鷹, 平成 24 年 11 月 17 日.
9. 川村治子: リスクマネジメント手法 インシデントレポートの有効活用 全社会福祉施設経営者協議会「初期リスクマネジャー養成研修会」, 東京, 平成 24 年 12 月 5 日.
10. 川村治子: 医療事故防止のために知っておきたい知識～注射・内服事故防止～. 山口県看護協会研修会, 防府, 平成 25 年 1 月 29 日.
11. 川村治子: 医療安全管理のために中小病院や診療所の管理者が備えておくべきこと～研究者の

立場から～. 三鷹市医師会講演会, 三鷹, 平成 25 年 1 月 18 日.

12. 川村治子: これだけは知っておきたい看護事故防止. 練馬区医師会講演会, 東京, 平成 25 年 2 月 23 日.

著書

1. 川村治子 (単著): 医療安全ワークブック第 3 版, 医学書院, 2013.

その他

1. 川村治子: 医療安全, 厚生労働省看護教員養成支援事業 (通信制教育) e ラーニング, 2013.

基礎・在宅看護学研究室

口演

1. 今留忍, 柳橋正智, 谷岸悦子, 佐藤智子, 津田美智子, 上田由喜子: “様” 呼称に関する文献的考察, 第 38 回日本看護研究学会学術集会, 沖縄, 平成 24 年 7 月 7-8 日.
2. 佐藤智子, 今留忍, 柳橋正智, 谷岸悦子, 津田美智子, 上田由喜子: 看護学生が認知する守秘義務と違反に相当する行為の検討 - 4 年生と 3 年生との比較から -, 第 38 回日本看護研究学会学術集会, 沖縄, 平成 24 年 7 月 7-8 日.
3. 柳橋正智, 市村久美子¹, 川波公香¹, (¹茨城県立医療大): 中堅看護師のプリセプター経験の意味づけ. 第 38 回.
4. 日本看護研究学会学術集会, 沖縄, 平成 24 年 7 月 7-8 日.
5. 津田美智子, 今留忍: 看護学生の心理的ストレス反応と性格特性の関連 第 2 報, 第 71 回公衆衛生学会, 山口, 平成 24 年 10 月 24-26 日.
6. 今留忍, 柳橋正智, 佐藤智子: 臨地実習の視座からみた看護学生のコミュニケーション能力の経年的変化, 第 32 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 平成 24 年 11 月 30-12 月 1 日.
7. 佐藤智子, 今留忍: 学年別にみた看護学生のコミュニケーション能力の因子構造, 第 32 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 平成 24 年 11 月 30-12 月 1 日.
8. 津田美智子, 今留忍: 看護学生の食生活とストレス反応の関連, 第 32 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 平成 24 年 11 月 30-12 月 1 日.
9. 森下純子, 井上智子¹(¹東京医科歯科大学大学院): 化学療法以外の選択肢がない進行肝がん患者の受療体験プロセスと看護支援の検討. 第 32 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 平成 24 年 11 月 30-12 月 1 日.

論文

1. 山本真由子: 【地域看護学と公衆衛生看護学 Part1 看護学生が学ぶ地域看護学再考】「看護師が行う地域看護活動」の視点から見た必要な教育内容, 看護教育 53(5): 370-375, 2012.

著書

1. 今留忍: 診療に伴う看護 与薬. 輸血. 看護学入門 第 6 巻 基礎看護学 I. 安達祐子¹, 岩田みどり², 大西潤子³, 鈴木美恵子⁴, 鈴木幹子⁵, 千葉京子⁶, 森美智子⁷編集 (¹前日本赤十字看護大学, ²前新潟医療福祉大学健康科学部看護学科, ³青梅市立総合病院看護局長, ⁴日本赤十字広島看護大学, ⁵高知県立大学看護学部, ⁶日本赤十字看護大学, ⁷日本赤十字秋田看護大学). 東京, メヂカルフレンド社, 2012. p.426-460.
2. 吉田陽子: 運動器に障害のある人の手術. 腰椎椎間板ヘルニア. ナーシンググラフィカ成人看護学⑤ 周手術期看護. 中島恵美子, 山崎智子¹, 竹内佐智恵²編. (¹上智大学総合人間科学部看護学科, ²三重大学医学部看護学科) 大阪, メディカ出版, 2013. p.217-220.

成人・高齢者看護学研究室

口演

1. 浅間泉¹, 中島恵美子 (¹杏林大学医学部付属病院): 緩和的化学療法を受ける患者に関わる看護師の体験. 第 17 回緩和医療学会学術大会, 神戸, 平成 24 年 6 月 22-23 日.
2. 木下千鶴¹, 増永啓子¹, 篠崎優子¹, 砥石和子¹, 佐藤澄子, 大場道子¹, 道又元裕¹ (¹杏林大学医学部付属病院): 新卒看護師教育システム Apricot Nurse Support System (ANSS) における看護基本技術習得状況—新卒看護師の経年別変化—. 第 16 回日本看護管理学会, 札幌, 平成 24 年 8 月 23-24 日.
3. 佐藤澄子: 問題解決技法, 日本手術看護学会第 12 回手術看護中堅者教育研修, 東京, 平成 24 年 7 月 13-15 日.
4. 伊藤有美, 讃井将満¹, 道又元裕²: 我が国の集中治療室における体重測定に関する実態調査 Part1 安全性の検討. (¹東京慈恵会医科大学附属病院, ²杏林大学医学部付属病院) 第 8 回日本クリティカルケア看護学会学術集会, 東京, 平成 24 年 6 月 2-3 日.
5. 伊藤有美: 重症患者の栄養管理. 2013 年度 ICU・CCU 看護教育セミナー (初級コース), 大阪, 平成 24 年 7 月 21 日.
6. 伊藤有美: 重症患者の栄養管理. 2013 年度 ICU・CCU 看護教育セミナー (初級コース), 東京, 平成 24 年 9 月 8 日.

論文

1. 松尾耕一¹, 伊藤有美, 草浦理恵² (¹みさと健和病院, ²自治医科大学附属さいたま医療センター): チームで読みとく! 人工呼吸ケア (症例 10) 肺炎, 敗血症性ショック患者の初期治療, 循環管理 (場面 1) 敗血症性ショックの初期評価と治療. 呼吸器ケア 10(6): 623-634, 2012.
2. 松尾耕一¹, 伊藤有美, 草浦理恵², 原田大³ (¹みさと健和病院, ²自治医科大学附属さいたま医療

センター,³慈恵会医科大学附属病院): チームで読みとく! 人工呼吸ケア(症例10)肺炎, 敗血症性ショック患者の初期治療, 循環管理. 呼吸器ケア10(7): 740-754, 2012.

著書

1. 中島恵美子: 乳がんとボディイメージボディイメージが及ぼす影響ー. エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図 改訂版. 阿部俊子監. 東京, 中央法規, 2013, p. 242.
2. 福田祐子: 脂質代謝異常, 人体の構造と機能からみた病態生理ビジュアルマップ3. 佐藤千史, 井上智子編集, 東京, 医学書院, 2011, p. 19.
3. 福田祐子: 第2編第1章看護の基本, 第4章消化器疾患を持つ患者の看護. 新体系看護学全書18成人看護学⑤消化器 第2版, 井廻道夫, 菅原スミ編集, 東京, メヂカルフレンド社, 2011, p. 325-355 p. 499-520.
4. 福田祐子: 第6章 看護職と生涯学習. ナーシンググラフィカ⑩基礎看護学-看護管理第3版, 村島さい子, 加藤和子, 瀬戸口要子編集, 大阪, メディカ出版, 2012, p. 140-153.

受賞, 特許等知的財産関係, 学会主催, 報告書

1. 加賀谷聡子: 虚血性心疾患患者のセルフマネジメントを促すためのリスク認識モデルの検討. 科学研究費補助金(基盤研究C)実績報告書.
2. 佐藤澄子: 日本手術看護学会第12回手術看護中堅者教育研修主催, 東京, 平成24年7月13-15日.
3. 佐藤澄子: 日本手術看護学会第10回手術看護管理研修主催, 東京, 平成24年9月14-16日.
4. 佐藤澄子: 日本手術看護学会第5回手術看護認定看護師フォローアップ研修主催, 東京, 平成24年12月9日.

助産学研究室

口演

1. 結城寛子¹, 山口安紀¹, 鈴木瞳¹, 東海林淳子¹, 金子幸子¹, 森田知子¹, 増永啓子¹, 砥石和子¹, 片桐麻州美 (杏林大学医学部付属病院総合周産期母子医療センター): バースセンターにおける助産師の職務満足に関する研究 第26回日本助産学会学術集会, 札幌, 平成24年5月1-2日.
2. 片桐麻州美, 井本寛子¹. 遠藤俊子² (日本赤十字社医療センター, ²京都橘大学看護学部): 産科病棟における助産ケア必要量と看護要員の充足感に関する調査 第16回日本看護管理学会年次大会, 札幌, 平成24年8月23-24日.
3. 佐藤喜美子: ふたご育児支援, 平成24年度東京都助産師会 助産師教育指導講習会, 東京, 平成24年9月7日.
4. 服部律子¹, 佐藤喜美子, 平石皆子², 大高恵美³, 大木秀一⁴ (岐阜県立看護大学, ²埼玉県立看護大学, ³日本赤十字秋田看護大学, ⁴石川県立看護

大学): 全国の周産期医療施設における妊娠中からの多胎支援の現状, 第53回日本母性衛生学会総会, 福岡, 平成24年11月16-17日.

5. 上羽侑¹, 松井法恵², 佐々木裕子, 佐藤喜美子 (杏林大学医学部付属病院, ²順天堂大学医学部付属病院): 経産婦のふたごの妊娠・出産・育児期における上の子の反応と母親の対応, 第53回日本母性衛生学会総会, 福岡, 平成24年11月16-17日.
6. 宮永優実¹, 星綾香¹, 宮本真¹, 大當麻由¹, 池田敏子¹, 齋藤由加¹, 岡部夏季¹, 佐藤多賀子¹, 林真希¹, 増永啓子¹, 片桐麻州美 (杏林大学医学部付属病院総合周産期母子医療センター): 施設内における母乳育児支援の検討, 第2回杏林メディカルフォーラム, 三鷹, 平成25年2月16日.

小児看護学研究室

口演

1. C. Kawakami¹, K. Ideno¹, Y. Tsuji², K. Harada², N. Morita², F. Ishikawa³ (Toho Univ, ²Toho Univ Omori Medical Center, ³Kyorin Univ): Parents' Experiences with Their Child Suffering from Cancer the 44th Congress of the International Society for Paediatric Oncology Oct. 5-8, 2012 London
2. Iimura N¹, Nishida S², Kai K³, Yoshino J⁴ (TMU, ²Kyoritsu Women's Junior College, ³Research Student, ⁴Kyorin Univ): Demands from Families for Nurses' Care in A Pediatric Outpatient Department in Japan. The 16th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Thailand, Feb. 21-22, 2013.
3. C. Kawakami¹, K. Ideno¹, A. Gima¹, J. Ogawa², Y. Takeda³, N. Morita³, F. Ishikawa⁴ (Toho Univ, ²Shukutoku Univ, ²Toho Univ Omori Medical Center, ⁴Kyorin Univ): Japanese Parents' Experiences as Living Kidney Donors for Their Children. The 16th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Thailand, Feb. 21-22, 2013.

報告書

1. 石川福江, 大塚香, 野中淳子: 小児がんに携わる看護師のメンタルヘルス. 小児がん看護ケアガイドライン2012ー小児がんの子どもへのQOLの向上を目指した看護ケアのためにー. 内田雅代, 長野, 平成21-24年度科学研究費助成金基盤研究(B), 2012. p 64-67.

母性看護学研究室

口演

1. 百成香帆, 加納尚美¹ (茨城県立医療大学): 職場内サポートが新人助産師のリアリティショックに及ぼす効果-プリセプターとそれ以外のス

スタッフに焦点をあてて -, 第 26 回日本助産学会
学術集会, 札幌, 平成 24 年 5 月 1-2 日.

2. 勝又里織: 人工妊娠中絶術を受ける女性の看護
ケアに対するニーズ - 出産経験者の中絶に焦点
を当てて -, 第 38 回日本看護研究学会学術集会,
沖縄, 平成 24 年 7 月 7-8 日.
3. Matsuoka M¹, Katsumata S, Ota N¹ (¹University
of Shizuoka): Growth and Change Seen
in Midwifery Graduate Students During
Antenatal Care Practice and Causal Factors
Thereof, The Mid-Atlantic Conference on Birth
and Primal Health Research, USA, Oct.27.
2012.
4. 勝又里織: 人工妊娠中絶術を受ける女性の心理
と看護ケアに対するニーズ - 妊娠初期に中絶を
受けた女性の声から -, 「想いを伝える」プロジ
ェクト 2012 ~患者と医療者が伝え合う ペリネ
イタル・ロス その体験とケアの実践~, 東京,
平成 24 年 5 月 27 日.

その他

1. 勝又里織: 住民とともに活動する保健師の会に
参加して一性問題への取り組みを中心として -,
ニューズレター『性の健康』, Vol.12 (1), 2012
年 5 月.
2. 勝又里織: 人工妊娠中絶術を受ける女性と看護
者のやりとりの場面に焦点を当てた看護に関
する研究, 学術研究助成基金助成金 (若手研究
(B)), 平成 24 年度.
3. 太田尚子¹(研究代表者), 堀内成子², 勝又里織
(分担研究者)(¹静岡県立大学, ²聖路看護大学):
日本人体験者のナラティブに基づくペリネイタル
・ロスのケアガイドラインの開発, 文部科学
省科学研究費補助金(基盤研究(B)), 平成 24 年度.
4. 松岡恵¹(研究代表者), 太田尚子¹, 勝又里織(連
携研究者), 山田貴代¹, 鈴木恵¹, 高木静¹ (¹静岡
県立大学): 成人教育に基づく助産師の妊婦健診・
ケア能力形成プログラムの検討, 文部科学省科
学研究費補助金(基盤研究(C)), 平成 24 年度.

その他

1. 土屋有利子: FGM(女性性器切除)と女性の健康,
グローバルフェスタ・JAPAN2012. ワークショ
ップを開催, 東京, 平成 24 年 10 月 7 日.
2. 土屋有利子: アフリカにおける FGM(女性性器
切除), 神奈川県民力発揮プロジェクト「セネガ
ル物語」のセミナーで講演, 横浜, 平成 25 年 3
月 16 日.

地域看護学研究室

口 演

学会

1. 山口佳子: 日本におけるアウトリーチの研究動
向と定義 - 医学中央雑誌を用いて. 日本地域看
護学会第 15 回学術集会, 東京, 平成 24 年 6 月

24 日.

2. 高城智圭, 星旦二¹, (¹首都大学東京都市環境科
学研究科): 乳幼児を育てる母親へのサポートと
Sense of Coherence との因果構造. 第 53 回日本
社会医学会総会, 高槻, 平成 24 年 7 月 15-16 日.
3. 大木幸子, 生島嗣¹, 井上洋士², 工藤恵子³ (¹ふ
れいす東京, ²放送大学, ³平成帝京大学): HIV
に関する相談への抵抗感と HIV 陽性者支援・セ
クシュアルヘルス相談経験との関連. 第 71 回日
本公衆衛生学会総会, 山口, 平成 24 年 10 月 25
日.
4. 井上洋士², 若林チヒロ², 戸ヶ里泰典¹, 板垣貴
志³, 細川隆也⁴, 大木幸子 (¹放送大学, ²埼玉県
立大学, ³株式会社アセクライド, ⁴京都大学大
学院): HIV 陽性者のヘルス・ヘルスプロモー
ション支援に向けた当事者参加型調査研究一狙
いと実施体制. 第 71 回日本公衆衛生学会総会,
山口, 平成 24 年 10 月 25 日.
5. 山口佳子・荒木田美香子・大神あゆみ・小西か
おる・中板育美・春山早苗・藤井広美・神馬征峰・
上木隆人・平野かよ子: 保健活動の質の評価指
標案の適切性と実行可能性(第 1 報) - 精神保
健福祉活動, 第 71 回日本公衆衛生学会総会, 山
口, 平成 24 年 10 月 26 日.
6. 藤井広美・中板育美・山口佳子・荒木田美香子・
春山早苗・大神あゆみ・小西かおる・神馬征峰・
上木隆人・平野かよ子: 保健活動の質の評価指
標案の適切性と実行可能性(第 2 報) - 健康づ
くり活動, 第 71 回日本公衆衛生学会総会, 山口,
平成 24 年 10 月 26 日.
7. 山本裕子¹, 大木幸子, 尾崎里恵¹ (¹シェア=国
際保健協力市民の会): 国際保健 NPO による災
害後の保健活動に関するコーディネーター支援の
意義, 第 2 回日本在宅看護学会, 東京, 平成 24
年 11 月 16 日.
8. 大木幸子, 生島嗣¹, 井上洋士², 工藤恵子³ (¹ふ
れいす東京, ²放送大学, ³平成帝京大学): 保健
所等における HIV 陽性者への支援の特性と困難
要因及びそれらへの方策, 第 26 回日本エイズ学
会学術集会学会, 横浜, 平成 24 年 11 月 25 日.
9. 志村友紀¹, 吉岡亜希子², 大木幸子 (¹東京通信
病院, ²板橋中央病院): 看護女子学生における
HIV 検査行動への阻害要因に関する調査. 第 24
回日本エイズ学会学術集会学会, 横浜, 平成 24
年 11 月 26 日.
10. 河西あかね¹, 本田浩子¹, 大木幸子 (¹東京都保
健政策部保健政策課): 保健師が抱える個別支援
での困難感の要因分析(第 1 報) - 平成 22 年度
の精神保健福祉相談事例の集計結果から -, 第 1
回日本公衆衛生看護学会, 東京, 平成 25 年 1 月
14 日.
11. 本田浩子¹, 河西あかね¹, 大木幸子 (¹東京都保
健政策部保健政策課): 保健師が抱える個別支援
での困難感の要因分析(第 2 報) - 保健所にお

- ける事例検討会の内容分析を通して一, 第1回日本公衆衛生看護学会, 東京, 平成25年1月14日.
12. 大木幸子, 本田浩子¹, 河西あかね¹ (1 東京都保健政策部保健政策課): 保健師が抱える個別支援での困難感の要因分析 (第3報) —事例検討会をとおした保健師の支援課題の捉え方の変化—, 第1回日本公衆衛生看護学会, 東京, 平成25年1月14日.

研究会・教育講演会

1. 加藤昌代: カウンセリングワークショップ, 第545回NPO法人日本精神療法学会, 伊香保, 平成24年4月21-22日.
2. 大木幸子: 個別支援の基本, 平成24年度町田市保健研修, 町田, 平成24年4月27日.
3. 大木幸子: 個別支援の基本と事例検討の意義, 平成24年度町田市健康課研修, 町田, 平成24年6月18日.
4. 大木幸子: 事例検討をとおした地域における個別支援, 初任期(保健師1年目)研修第1回, 横浜, 平成24年7月30日.
5. 大木幸子: 保健師に求められる能力と現任教育～保健師活動の目指すもの～, 平成24年度青森県初任期保健師研修第1回, 青森, 平成24年8月8日.
6. 加藤昌代: カウンセリングワークショップ, 第552回NPO法人日本精神療法学会, 山ノ内, 平成24年9月1日-2日.
7. 山口佳子: 保健師記録の書き方—こう書けば, よくわかる. 埼玉県保健医療部平成24年度新任保健師研修, 埼玉, 平成24年9月19日.
8. 大木幸子: HIV陽性者支援の現状と課題～全国の保健所等の保健師への調査から～, 平成24年度保健所職員等エイズ専門研修, 東京, 平成24年10月2日.
9. 大木幸子: エイズ検査でのセクシュアリティへの配慮, 公益財団法人エイズ予防財団東北ブロックHIV検査担当者向け研修会, 仙台, 平成24年10月29日.
10. 山口佳子: 保健師記録の書き方について, 埼玉県川越市平成24年度保健師集合研修, 川越, 平成24年11月7日.
11. 大木幸子: セクシュアリティの理解と求められる配慮, 神奈川県平成24年度保健所等HIV検査従事者のためのエイズ専門研修, 横浜, 平成24年11月7日.
12. 大木幸子: 地域における継続的HIV/エイズ支援対策～受検行動促進からHIV陽性者の長期療養生活支援まで～, 国立保健医療科学院, 埼玉, 平成24年11月8日.
13. 大木幸子: 個人・家族へのアセスメントの方法, 川崎市新任フォロー期看護職研修, 川崎, 平成24年12月3日.
14. 大木幸子: 個人・家族をとり社会環境のアセスメント, 初任期(保健師1年目)研修第2回, 横浜,

平成24年12月10日.

15. 大木幸子: 保健師に求められる能力と現任教育～家族を支援し, 地域を支援する公衆衛生看護活動～, 平成24年度青森県初任期保健師研修第2回, 青森, 平成24年12月17日.
16. 山口佳子: 記録の書き方, 埼玉県看護協会 平成25年度保健師新任研修, 埼玉, 平成25年2月2日.
17. 大木幸子: 訪問看護対象者の分析から東部訪問看護事業部の看護を考える, (社)全国重症心身障害児(者)を守る会東部訪問看護事業部現任研修, 東京, 平成25年3月4日.
18. 大木幸子: 母子保健活動の原点, 町田市健康会館, 東京, 平成25年3月8日.
19. 大木幸子: 変動する社会における公衆衛生看護の使命は何か? 使命を遂行するために保健師が堅持すべきこととは?, 地域保健・医療・福祉活動研究会, 岡山, 平成25年3月15日.

論文

1. 原口奈千, 今泉貴暁, 鈴木崇弘, 橋本雪乃, 高城智圭, 大木幸子: 災害時におけるコミュニティづくりに関する支援技術—三宅島噴火災害での支援活動を通して—, 杏林医学会雑誌, 43(2), s15 - s26, 2012.
2. 大木幸子: 地域保健活動における予防接種被小児看護 36(4): 481-487, 2013.
3. 山口佳子: 保健師活動としてのアウトリーチの特性—日本の保健師教育の教科書における記述の分析, 杏林大学研究報告教養部門第30巻: 21-31, 2013.
4. 藺森礼・小林千浩・佐々木実季・佐藤瑞穂・中原麻惟・山口佳子: 東日本大震災・福島第一原子力発電所事故による母子の不安に対する保健師活動～被災地以外の市町村に焦点を当てて～, 保健師ジャーナル 69巻3号: 216-223, 2013.
5. 山口佳子・石川貴美子・波形千恵子・仲間いずみ: 業務委託の質を担保する, 地域保健 44巻2号, 医学書院, p16-39, 2013.
6. 加藤龍一¹, 高城智圭, 櫻井尚子², 星旦二³ (1 農協共済総合研究所, 2 東京慈恵会医科大学, 3 首都大学東京): 地域在住高齢者の転倒の関連要因と3年後の生存, 日本公衆衛生雑誌 59 (5): 304-315, 2012.
7. 星旦二¹, 高城智圭, 井上直子¹, 中山直子¹, 湯浅資之², 櫻井尚子³ (1 首都大学東京, 2 順天堂大学, 3 東京慈恵会医科大学): 都市在宅高齢者における社会経済的要因と健康三要因との因果構造, 日本健康教育学会誌 20 (3): 159-170, 2012.
8. 星旦二¹, 井上直子¹, 湯浅資之², 藤原佳典³, 高城智圭, 高橋俊彦¹, 櫻井尚子⁴ (1 首都大学東京, 2 順天堂大学, 3 東京都健康長寿医療センター, 4 東京慈恵会医科大学): 都市在宅高齢者における3年後の等価収入額に寄与する社会経済的要因と主観的健康感および生活習慣パス解析, 日本

健康教育学会誌 21 (1) : 3-12, 2013.

著書

1. 大木幸子, 公衆衛生看護活動の場 行政, 新版保健師業務要覧第3版. 井伊久美子・荒木田美香子・松本珠実・堀井とよみ・村嶋幸代・平野かよ子編. 東京, 日本看護協会出版会, 2013, p.50-58.
2. 山口佳子: 健康相談. 新版保健師業務要覧第3版. 井伊久美子・荒木田美香子・松本珠実・堀井とよみ・村嶋幸代・平野かよ子編. 東京, 日本看護協会出版会, 2013, p116-123.
3. 大木幸子, エイズ対策における保健師の活動. 平野かよ子・奥山則子・島田美喜編. ふみしめて七十年, 東京, 日本公衆衛生協会, 2013, p.249-251.
4. 山口佳子: 福祉関係八法改正と市町村福祉部門への保健師配置. ふみしめて70年～老人保健法制定後約30年間の激動の時代を支えた保健師活動の足跡. 平野かよ子・奥山則子・島田美喜編. 東京, 日本公衆衛生協会, 2013, p74-75.

受賞, 特許等知的財産関係, 報告書

1. 大木幸子: HIV及び精神保健の専門機関における支援と連携に関する研究, 平成24年度厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策研究事業) 分担研究報告書.
2. 山口佳子: 精神保健福祉活動の評価指標の開発. 平成24年度厚生労働科学研究費補助金 政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業) 研究年度終了報告書, 2013, 56-72.
3. 高城智圭: 平成24年度日本社会医学学会奨励賞.

精神看護学研究室

口演

1. 浅沼奈美: 「ひきこもり支援事業を通じた地域ネットワークの再構築に向けて～保健師の個別の地区活動に向き合う力から～」, 町田市保健所, 東京, 2013年6月20日.
2. 浅沼奈美: 「実習とつながる精神看護学概論」, 井之頭病院実習指導者研修会, 東京, 平成24年12月20日.
3. 浅沼奈美: 「援助について考える」, 東京都精神保健福祉研修(後期) 地域援助技術研修・中級. 東京都中部総合精神保健福祉センター. 東京, 平成25年1月25日.

論文

1. 田島加奈子¹, 大澤彩², 田野将尊, 末松愛子³, 井田雅祥¹ (¹ 国家公務員共済組合連合会虎の門病院分院 リハビリテーション部, ² 昭和大学保健医療学部作業療法学科, ³ 法務省宇都宮保護観察所): 一般病院における身体疾患を合併した精神障害者に対する作業療法の現状と意義 身体障害領域に従事する作業療法士への質問紙調査から. 作業療法 32 巻 1 号 : 75-85, 2013.

2. 田野将尊, 梶浦寛美¹, 境茂雄², 吉田裕紀子, 小野由里, 遠藤加奈子, 佐藤耕一郎¹, 佐藤雅美¹, 小林啓之 (¹ 東京武蔵野病院看護部, ² 東京武蔵野病院薬剤部): 精神科退院クリニカルパスを用いた退院支援の有用性の検討. 精神医学研究所業績集 48 号 : 22-26, 2013.

報告書

1. 浅沼奈美: 「若年者の自立に関する調査報告」～ひきこもる若者たちを地域で支えるために～. 町田市保健所. 平成25年3月.
2. 浅沼奈美: 平成24年度厚生労働科学研究「質の高いサービスを提供するための地域保健行政従事者の系統的な人材育成に関する研究」分担研究「福祉事務所等における保健師の効果的な活動・活動事例に関する研究」研究協力. 福祉事務所等における保健師の効果的な活動・活用事例事例集平成25年3月.

医療科学 I 研究室

口演

学会

1. 呂彩子^{1,2}, 景山則正², 高木徹也, 浅原千歩, 松村桜子, 佐藤喜宣 (¹ 東女医大, ² 東監医): 未固定凍結切片とオスミウム酸固定後パラフィン包埋切片による肺組織内脂肪染色性の検討. 第96次日本法医学会学術全国集会, 浜松, 平成24年6月9日.
2. 寺岡敦, 鐘ヶ江孝¹, 南部聡², 松村桜子, 須藤孝子, 佐藤喜宣 (¹ 日大, ² 森の風インプラント歯科クリニック): 長期飲酒者と低カルボキシル化オステオカルシンの関連性について. アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 札幌, 平成24年9月8日.

講演

1. 松村桜子: バレーボールの楽しさいろいろ～ユース・ジュニアチームの帯同を通じて～. 杏林大学調布市内・近隣大学等公開講座. 調布, 平成24年10月29日.

その他

1. 松村桜子: 第9回アジアユース女子バレーボール選手権大会(帯同ドクター). 中国(成都), 平成24年10月12-20日.

医療科学 II 研究室

口演

1. 小林治: 抗インフルエンザ療法の考え方. 第86回日本感染症学会学術総会・学術講演会, 第60回日本化学療法学会学術集会. シンポジウム10. 長崎, 2012年4月26日.
2. 小林治: 外来診療における有熱者のトリアージ. Apricot Seminar 2012. 埼玉, 2012年5月25日.
3. 小林治. 感染制御のヒント: プロの感染防御策.

杏林大学公開講座. 東京, 2012年6月16日.

4. Osamu Kobayashi : Clinical effectiveness and safety of favipiravir based on the data from the third clinical trial. 2012 TEPIK, transgovernmental enterprise for pandemic influenza in Korea. Invited speech. 29th. of the June, 2012. Seoul.
5. 小林治 : 肺炎の診断と抗菌療法. 大正富山医薬品講演会. 東京, 2012年7月12日.
6. 小林治 : 高齢者呼吸器感染症のマネージメント. 第4回J感染症ネットワークフォーラム. 仙台, 2012年8月25日.
7. 小林治 : インフルエンザ治療の考え方. インフルエンザフォーラム in 長岡 2012. 新潟, 2012年10月31日.
8. 小林治 : インフルエンザ治療の考え方. 目黒区医師会内科部会講演会. 東京, 2012年11月16日.
9. 小林治 : インフルエンザの病態と制御. 小平市医師会学術講演会. 東京, 2012年11月22日.
10. 小林治 : インフルエンザの病態と制御. 杏林大学医学部同窓会群馬県支部特別講演. 高崎, 2013年2月23日.
11. 小林治, 西圭史 : 皮膚消毒薬が及ぼす CR-BSI 起因菌への影響についての検討. 第28回日本環境感染学会総会. 横浜, 2013年3月2日.

論文

1. 小林治 : RNA ポリメラーゼ阻害薬—ファビピラビルの有効性と安全性. 医学のあゆみ第一土曜特集 241(1), 89-93, 2012.
2. 小林治 : ファビピラビルへの期待. 臨床と研究 89(12), 1657-61, 2012
3. 小林治 : 抗インフルエンザ薬の特徴と有効性 : ファビピラビル. 呼吸器内科 22(6), 526-531, 2012.
4. 小林治 : ファビピラビルに期待すること. インフルエンザ 48, 31-35, 2013.
5. 小林治 : 抗インフルエンザ薬. 呼吸 32(1), 46-50, 2013.

著書

1. 小林治 : ファビピラビルによる治療とは?. インフルエンザの最新知識 Q&A2012. 鈴木宏, 渡辺彰 編. 大阪, 医薬ジャーナル社, 2012.
2. 小林治 : 抗ウイルス薬. からだの科学 276. 柴孝也 編. 東京, 日本評論社, 2012.
3. 小林治 : ANCA と慢性気道感染症. 日本臨床 71 巻 増刊号 1. 大阪, 日本臨床社, 2013.
4. 小林治 : 抗インフルエンザ薬の現状と使い分け. 呼吸器疾患最新の治療 2013-2015. 貫和敏博, 杉山幸比古, 門田淳一 編. 東京, 南江堂, 2013年2月15日.
5. 小林治 : ANCA と慢性気道感染症. 血管炎 - 基礎と臨床とのクロストーク -. 鈴木和夫 編. 大阪, 日本臨床社, 2013年2月20日.
6. 小林治 : Check up! 一冊まるごとインフルエンザ

の制御法. 東京, メジカルビュー社, 2013.

看護養護学 I 研究室

口演

1. 岩見文博¹, 楠田美奈¹, 照屋浩司¹, 片桐朝美², 太田ひろみ, 石野晶子³, 大嶺智子⁴, 加藤英世³ (¹杏林大学 保健学部公衆衛生学教室, ²杏林大学保健学部心理学・社会福祉学 研究室, ³杏林大学保健学部母子保健学教室, ⁴健康教育学教室) : 幼児の成長および生活習慣と骨量獲得との関連について. 日本公衆衛生学会, 山口市, 平成24年10月24-26日.
2. 石野晶子¹, 加藤英世¹, 太田ひろみ, 松田博雄² (¹杏林大学 保健学部母子保健学研究室, ²淑徳大学) : 養護教諭の HPV ワクチンに関する認識と健康教育に関する研究. 日本公衆衛生学会, 山口市, 平成24年10月24-26日.
3. 古橋晃一¹, 大塚絢子¹, 加藤英世¹, 石野晶子¹, 岩見文博², 太田ひろみ, 酒井順子³, 高橋衣純⁴, 田辺郁恵⁵, 高塩彩⁶ (¹杏林大学保健学部母子保健学教室, ²杏林大学保健学部公衆衛生学教室, ³学芸大学附属大泉小, ⁴東京学芸大学附属国際中学校, ⁵並区立富士見ヶ丘小学校, ⁶拓殖大学第一高校) : 足底円蓋形成の経年変化とその関連要因に関する研究. 日本学校保健学会, 神戸, 平成24年11月9-11日.
4. 上羽侑¹, 松井法恵², 佐々木裕子, 佐藤喜美子³ : (¹杏林大学医学部付属病院, ²順天堂大学練馬病院, ³杏林大・保・助産学) 経産婦のふたごの妊娠・出産・育児期における上の子の反応と母親の対応, 第53回日本母性衛生学会学術集会, 福岡, 平成23年11月16-17日.

著書

1. 太田ひろみ : 基礎技術 健康教育. 保健師業務要覧第3版. 井伊久美子, 荒木田美香子, 松本珠美, 堀井とよみ編, 東京, 日本看護協会出版会, 2013年. p.124-127.

その他

1. 佐々木裕子, 佐藤喜美子¹ : (¹杏林大・保・助産学), 子どもの暮らしとケア, NPO 法人保育サービスひまわりママ, 武蔵野市, 平成24年7月4日.
2. 太田ひろみ : ふたごの育児. 大田区子育て支援講座, 東京, 平成24年10月19日.
3. 佐々木裕子 : いのちのお話—私たちの大切なこころとからだ—. 神奈川県立座間養護学校相模向陽館分教室, 平成24年11月28日.

看護養護学 II 研究室

口演

1. 佐野恵美香, 五味敏明, 國澤尚子, 清水友歌, 西原賢, 木村明彦, 成瀬秀夫, 寺嶋美帆, 林弘之 : 超音波診断装置による肘窩注射部位の安全性の

検討. 日本看護学教育学会第22回学術集会, 熊本, 平成24年8月4-5日.

2. 後藤桂子, 水野智子, 徳本弘子, 河津芳子, 佐野恵美香: 基礎的看護学学習統合を図る教育的介入プログラムの開発-状況設定下での対象把握状況の調査-. 日本看護学教育学会第22回学術集会, 熊本, 平成24年8月4-5日.
3. 水野千尋, 品田朋子, 市川かよ子, 森田桂, : 中堅保健師が強化したい力についての一考察-新任保健師の個別支援の困難から-. 第71回日本公衆衛生学会総会, 山口, 平成24年10月24-26日.
4. 亀崎路子: 子ども支援の地域ネットワークづくりに関わる養護教諭の実践方法の特徴-アクションリサーチに取り組んだ困難感を持つ養護教諭と熟練者の比較検討-. 第59回日本学校保健学会, 神戸, 平成24年11月11日.
5. 佐野裕子, 佐野恵美香, 田村尚亮, 小幡賢一, 植木純: 呼吸リハビリテーション専門外来における新しい試み-呼吸時の呼吸法指導について-. 第22回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 福井, 平成24年11月23-24日.
6. 亀崎路子: 養護教諭の実践研究について. 平成24年度千葉県葛南管内養護教諭連絡協議会 研修会, 船橋, 平成24年12月6日.
7. 亀崎路子: 養護教諭の子ども支援の地域ネットワークづくりを促進する働き-アクションリサーチを用いた研究者と実践者の支援検討-. 第9回日本学校健康相談学会, 東京, 平成25年3月16日.
8. 秋山緑, 上原美子, 亀崎路子, 河野千枝, 立花ま帆: 養護教諭の成長に影響を与える要因に関する研究第1報-文献検討を通じた看護師および教師の成長との比較-. 第9回日本学校健康相談学会, 東京, 平成25年3月16日.
9. 木村明彦, 佐々木清三, 西原賢, 林弘之, 成瀬秀夫, 金村尚彦, 佐野恵美香, 寺嶋美帆, 井所拓哉, 五味敏昭: 超音波エコー装置を用いた肘窩の映像解剖学的研究(第1報), 第188回日本解剖学会総会・全国学術集会, 香川, 平成25年3月28-30日.

論文

1. 亀崎路子: 子ども支援の地域ネットワークづくりに対する養護教諭の接近方法. 千葉看護学会会誌. 18(2), 27-35, 2012.
2. 柴山志穂美: これからの「医療的ケア」【理論編】指示とケアをつなぐ「医療的ケアマネジメント」をめざして. 訪問看護と介護 17(8): 684-688, 2012.
3. 柴山志穂美: 「主任ケアマネスキルアップ講座10」“地域のリーダー”としての姿勢. ケアマネジャー 15(1): 72-73, 2013.
4. 佐野恵美香, 植木純¹, 長岡正範¹ (¹順天堂大学大学院): 特集訓練でできる身体をつくる! リハビリ棟の呼吸リハ; かかわりの実際 1. 呼吸機能のアセスメント, リハビリナース 6(2): 133-138, 2013.
5. 柴山志穂美: 「主任ケアマネスキルアップ講座11」主任ケアマネ研修から考える. ケアマネジャー 15(2): 72-73, 2013.

著書

1. 青井陽, 天笠茂, 新井猛浩, 市木美知子, 大久保圭策, 小川浩子, 笠井直美, 梶岡多恵子, 亀崎路子, 小林正子, 坂口寄子, 竹田由美子, 武見ゆかり, 吉田扶三子, 横田正義, 渡邊正樹: 学校保健安全法に対応した「改訂 学校保健」-ヘルスプロモーションの視点と教職員の役割の明確化-. 編著者 徳山美智子, 中桐佐智子, 岡田加奈子. 京都, 東山書房, 2012. 54-65.
2. 内藤佳津雄, 山谷里希子, 欄香代子, 高橋龍太郎, 高橋誠一, 宮島渡, 松本一生, 助川未来枝保, 長谷川和夫, 沖田裕子, 長森秀尊, 川崎千鶴子, 小澤温, 小熊順子, 元山淳, 谷口明広, 坂本洋一, 植村英晴, 石渡博幸, 牧田茂, 宇田勇希, 松下祥子, 阪本恵子, 井上洋士, 高塚博, 吉川かおり, 清水由香, 大塚晃, 関谷栄子, 高野龍昭, 石渡和実, 中島秀夫, 田治英彦, 千葉由美, 高崎良子, 白井孝子, 藤井保人, 大谷佳子, 柴山志穂美: 「終末期における観察のポイント」. 介護職員等実務者研修(450時間研修)テキスト第4巻. 黒澤貞夫, 石橋真二, 上原千寿子, 白井孝子編集. 東京, 中央法規出版, 2012. 315-322.
3. 奥田亜由子, 後藤佳苗, 佐藤珠美, 柴山志穂美: ここから押さえよう! 準備から終了までの流れとポイント. サービス担当者会議マニュアル. 担当者会議向上委員会編集. 東京, 中央法規出版, 2012. 24-67.
4. 上之園佳子, 植村英晴, 大島千帆, 柴山志穂美, 高畑隆, 谷口敏代, 新津ふみ子, 峯尾武巳, 村田美由紀, 柳田正明: 介護における連携. 文部科学省検定教科書介護福祉基礎. 田中由紀子, 川井太加子編著. 東京, 実教出版, 2012. 138-147.
5. 林裕栄, 大須賀恵子, 布施晴美, 亀崎路子, 矢後文子: 暮らしの看護. 編著者 萱場一則. 東京, 建帛社, 2013. 63-95, 99-105.
6. 田中由紀子, 川井太加子, 上之園佳子, 大島千帆, 柴山志穂美, 高畑隆, 谷口敏代, 新津ふみ子, 峯尾武巳, 柳田正明, 奥山留美子, 佐々木博美, 清水弘恵, 萩原明子, 森紀子: 介護における連携. 介護福祉基礎教授用指導書. 実教出版株式会社編修部編集. 東京, 実教出版, 2013. 114-121.
7. 青柳佳子, 白井由布子, 内田千恵子, 浦尾和江, 大谷佳子, 小川正子, 小川義光, 小熊順子, 川井太加子, 絹木憲司, 工藤久, 久保田トミ子, 黒澤貞夫, 是枝祥子, 桜井和代, 佐々木宰, 柴山志穂美, 嶋田美津江, 高崎良子, 滝波順子, 竹田幸司, 田治秀彦, 田中雅子, 千葉由美, 富田川智志, 内

藤佳津雄, 橋本美智子, 橋本祥恵, 藤井智, 藤井保人, 眞鍋誠子, 山谷里期子: 「死にゆく人に関したこころとからだのしくみ」. 介護職員初任者研修テキスト第2巻. 黒澤貞夫, 石橋真二, 是枝祥子, 上原千寿子, 白井孝子編集. 東京, 中央法規出版, 2013. 260 - 268.

その他

1. 亀崎路子: 教育 保健室から1「ゆれる・育つ思春期の子どもたちと」. 婦人の友社1月号: 108 - 113, 2013.
2. 亀崎路子: 教育 保健室から2「思春期を健康に過ごすには」. 婦人の友社2月号: 106 - 111, 2013.
3. 森田桂: 平成24年度第1～3回立川市障害福祉課事例検討会助言者, 立川, 平成24年5月8日, 6月19日, 11月21日, 平成25年2月8日.
4. 森田桂: 学園都市大学いちょう塾一障害を持つものの暮らしー, 八王子市学園都市文化ふれあい財団, 八王子, 平成24年5月15日, 22日, 29日.
5. 森田桂: 第4回立川市健康づくり推進員養成講座講師, 立川, 平成24年7月26日, 8月2日, 8月9日.
6. 浦安市教育研究会保健部会研修講師: 救急処置場面における連絡の問題点の分析と改善策の検討～校内連携の推進をめざして～, 浦安, 平成24年8月8日, 8月27日, 10月17日.
7. 亀崎路子: 日本養護教諭養成大学協議会FD委員会委員: 養護教諭基礎教育における倫理教育のあり方. 平成24年11月11日, 平成25年1月6日, 3月10日.
8. 森田桂: 平成24年度立川市専門職会議講師, 立川, 平成25年2月26日.
9. 森田桂: 立川市障害程度区分認定等審査会委員 (平成24年度).
10. 柴山志穂美: 介護福祉士実技試験委員 (平成24年度).
11. 柴山志穂美: 日本ケアマネジメント学会代議員 (平成24年度).
12. 柴山志穂美: 認定介護福祉士 (仮称) のあり方に関する検討委員会委員, 同制度化検討委員会委員 (平成24年度).

臨床生理学・医用応用工学研究室

口 演

1. 佐野晃士¹, 三輪隆¹, 小池朋弘¹, 藤原真梨子¹, 島順子¹, 原島敬一郎, 今野一誠¹, 田辺節¹, 伊藤祿郎¹, 小林高明¹, 小田原雅人¹ (¹東京医科大学糖尿病代謝内分泌内科): インスリン抵抗性合併高コレステロール血症患者におけるエゼチミブ投与の有用性 血管内皮機能に及ぼす影響. 第55回日本糖尿病学会年次学術集会, 横浜, 平成24年5月18-19日.

2. 司茂幸英: 心電図波形の計測. 平成23年度基礎から学ぶ生理研修会, 東京, 平成24年6月17日.
3. 三谷博子, 石山陽事¹ (¹虎の門病院): 交感神経皮膚反応 (SSR) を用いた新たな認知機能検査の検討ー深吸気・音・視覚刺激によるSSR潜時の比較ー. 第59回日本臨床検査医学会, 静岡, 平成24年11月30日.
4. 石川真吾, 大谷菜々子, 三谷博子: 音・急速吸気刺激を用いた認知機能検査の基礎的検討ー利き手, 非利き手の交感神経皮膚反応SSR潜時についてー, 第4回大学コンソーシアム八王子, 東京, 平成24年12月8日.
5. 佐藤洋子, 井上千鶴, 三谷博子: 居眠り状態を覚醒レベルに移行させる低侵襲刺激の基礎的検討, 第4回大学コンソーシアム八王子, 東京, 平成24年12月8日.

著 書

1. 司茂幸英 (分担執筆): 生理機能検査学実習書. 今井正編集, 東京, 医歯薬出版, 2012. p.190-195.

その他

1. 司茂幸英 (実技講師): 健康運動指導士講習会. 東京, 平成24年5月3日.
2. 司茂幸英 (実技講師): 平成24年度基礎から学ぶ生理研修会. 東京, 平成24年6月17日.
3. 司茂幸英 (資格認定試験委員): 緊急試験生理機能検査. 東京, 平成24年7月8日.
4. 司茂幸英 (実技講師): 健康運動指導士講習会. 東京, 平成24年8月19日.
5. 司茂幸英 (実技講師): 不整脈の読み方・考え方. 東京, 平成24年9月15日.
6. 司茂幸英 (実技講師): 健康運動指導士講習会. 東京, 平成24年11月25日.
7. 司茂幸英 (実技講師): 健康運動指導士講習会. 東京, 平成25年2月17日.

先端臨床工学研究室

口 演

1. 中島章夫, 臨床工学技士養成に求められる教育改革について, 第22回日本臨床工学会, 富山, 平成24年5月12日.
2. 中島章夫, 水島岩徳, 電気メスによる放射電磁波測定陽アンテナの開発と測定, 札幌, 第87回日本医療機器学会大会, 平成24年6月8日.
3. 中島章夫, 電気・電子シミュレーション回路を用いた実施報告, 平成24年度一般社団法人日本臨床工学技士教育施設協議会教員研修会, 高知, 平成24年6月10日.
4. 中島章夫, 治療機器の原理・取扱い上の注意と保守点検, 第5回MDIC認定セミナー, 東京, 平成24年10月20日.
5. 中島章夫, コンピュータ・情報セキュリティの基礎, 第5回MDIC認定セミナー, 東京, 平成24年10月21日.

6. 中島章夫, 安全の基礎とトラブル事例～医療機器を安全に扱うための電気の基礎知識～, 第34回ME技術講習会, 札幌, 平成24年6月29日.
7. 中島章夫, 佐藤俊一, 医用レーザー機器の安全, 第27回レーザー安全スクール, 東京, 平成24年10月24日.
8. Sumikura H, Kumai H, Fukunaga K, Ohnuma K, Ohgoe Y, Homma A, Funakubo A, Fukui Y: A study on optimization of vane design for an axial flow blood pump with an enclosed-impeller using multi-objective genetic algorithm, 20th Congress of the International Society For Rotary Blood Pumps, Turkey, Sep. 20-22, 2012.
9. 福長一義, 舟久保昭夫, 磯山隆, 福井康裕: 人工肺とGME, 第38回日本体外循環技術医学会大会, 千葉, 平成24年11月3日.
10. 水島岩徳, 中島章夫, 電気メスからの電磁波の放射様式に関する研究, 第41回杏林医学会総会, 東京, 平成24年11月17日.
11. 磯山隆, 根本功, 斎藤逸郎, 有吉洗希, 石井耕平, 井上雄介, 福長一義, 井街宏, 阿部裕輔: プレブライミング人工肺を目指した緊急生命維持システムの研究開発, 第50回日本人工臓器学会大会, 福岡, 平成24年11月22-24日.
12. 福長一義, 佐藤彩美, 米窪貴光, 大貫雅也, 斎藤逸郎, 磯山隆, 阿部裕輔, 山家智之, 舟久保昭夫, 福井康裕: カスケードポンプの軸対称ポート配置による偏心力の改善に関する研究, 第50回日本人工臓器学会大会, 福岡, 平成24年11月22-24日.
13. 福長一義, 大貫雅也, 星原卓弥, 大澤翔太, 三田村好矩, 阿部裕輔, 舟久保昭夫, 福井康裕: 経皮的右心補助カテーテルポンプの開発, 第40回人工心臓と補助循環懇話会学術集会, 長野, 平成25年2月1-2日.
14. 阿部裕輔, 石井耕平, 磯山隆, 斎藤逸郎, 井上雄介, 小野俊哉, 中川英元, 中野英美子, 石原一彦, 福長一義, 小野稔, 井街宏: 螺旋流ポンプを用いた新しい完全人工心臓の開発, 第40回人工心臓と補助循環懇話会学術集会, 長野, 平成25年2月1-2日.
15. 米窪貴光, 大貫雅也, 福長一義: 遠心血液ポンプへの誘導カップリングの応用, 第22回ライフサポート学会フロンティア講演会, 東京, 平成25年3月3日.

論文

1. Abe Y, Ishii K, Isoyama T, Saito I, Inoue Y, Ono T, Nakagawa H, Nakano E, Fukazawa K, Ishihara K, Fukunaga K, Ono M, Imachi K: The helical flow pump with a hydrodynamic levitation impeller. *J Artif Organs* 15: 331-340, 2012.

生理・生体工学研究室

口演

1. 木暮英輝, 瀬野晋一郎, 渡辺篤志, 加藤幸子, 小林博子, 嶋津秀昭: 多チャンネルインピーダンス計測による肺局所換気モニタシステムの開発と実験的評価. 第51回日本生体医工学学会大会, 福岡, 平成24年5月10日.
2. 嶋津秀昭: 知覚・痛覚定量分析装置ペインビジョンの原理と新たな臨床応用. 日本ペインクリニック学会第46回大会, 松江, 平成24年7月6日.
3. 木暮英輝: 多チャンネルインピーダンス計測による肺局所換気モニタシステムの開発. 生体医工学シンポジウム2012, 豊中, 平成24年9月8日.
4. 嶋津秀昭: 知覚痛覚定量分析装置 PainVision の原理と新たな展開. 第42回日本慢性疼痛学会, 東京, 平成25年2月22日.

論文

1. 木暮英輝: 多チャンネルインピーダンス法と差圧式呼吸流量計による肺局所換気モニタシステムの開発. 生体医工学 51: 67-74, 2013.

著書

1. 加藤幸子: 速効! 簡単! 手・耳・足のマッサージ. 日本語版監修. 東京, 日東書院本社, 2012.
2. 加藤幸子: 速効! 簡単! 経絡健康法. 日本語版監修. 東京, 日東書院本社, 2012.

*平成23年度追加分

論文

1. 渡辺篤志: 強皮症における体表面弾性特性の非接触的計測. 生体医工学 50: 92-98, 2012.

血液浄化療法学研究室

口演

1. 須田健二, 幡多徳彦, 中野一洋, 嶋津秀昭, 副島昭典, 舟久保昭夫: 血液透析における抜針検知システムに関する基礎検討. 第51回日本生体医工学学会, 福岡, 平成24年5月10日.
2. 須田健二, 島峰逸朗, 鈴木祥史, 副島昭典: ダイアライザー内での血液凝固の予知に関する実験的研究. 第55回日本腎臓学会総会, 横浜, 平成24年6月3日.
3. 鈴木祥史, 須田健二, 松山幸枝, 寺田知新, 恵良聖一, 副島昭典: 維持血液透析患者の血漿還元能を改善する透析液の開発. 第55回日本腎臓学会総会, 横浜, 平成24年6月3日.
4. 菊田雅宏, 五十嵐友, 須田健二, 鈴木祥史, 副島昭典: ダイアライザー内での血液凝固の予知に関する実験的研究. 第63回三多摩腎疾患治療医会, 三鷹, 平成24年7月8日.
5. 鈴木祥史, 小玉麻里菜, 須田健二, 松山幸枝, 寺田知新, 南武志, 恵良聖一, 副島昭典: 維持血液透析患者の血漿還元能を改善する透析液の検討.

第24回腎とフリーラジカル研究会, 東京, 平成24年10月6日.

6. 須田健二, 菊田雅宏, 五十嵐友, 鈴木祥史, 副島昭典: ダイアライザー内での血液凝固の予知に関する実験的研究. 第3回関東臨床工学会, つくば, 平成24年11月4日.
7. 五十嵐友, 菊田雅宏, 須田健二, 鈴木祥史, 副島昭典: ピエゾ素子によるダイアライザー内血液凝固予知の実験的研究. 第41回杏林医学会総会, 三鷹, 平成24年11月17日.
8. 須田健二, 幡多徳彦, 中野一洋, 嶋津秀昭, 副島昭典, 舟木保昭夫: 血液透析における抜針検知システムに関する基礎検討. 第50回日本人工臓器学会, 福岡, 平成24年11月22日.
9. 鈴木祥史, 須田健二, 平岡厚, 副島昭典: 高濃度水素分子が溶存する透析液調製法の検討. 第3回分子水素医学シンポジウム, 東京, 平成25年2月9日.

論文

1. 副島昭典: 横紋筋変性, 横紋筋融解症. 腎臓症候群(第二版, 下), 別冊 日本臨床 新領域別症候群シリーズ No18, 750-756, 2012.
2. 小池秀海, 副島昭典: 尿毒症性ミオパチー. 腎臓症候群(第二版, 下), 別冊 日本臨床 新領域別症候群シリーズ No18, 73-76, 2012.
3. 早川哲, 山田明, 和久昌之, 副島昭典: 血液透析患者における透析前後の循環血液量変動に関する研究. 日本透析医学会雑誌 27: 506-512, 2012.

著書

1. 副島昭典: CBT こあかり 1 オリエンテーション 第4版(分担執筆). 医学評論社, 東京, 2012.
2. 副島昭典: 新体系看護学全書 成人看護学7-腎(分担執筆). メジカルフレンド社, 東京, 2012.
3. 副島昭典: 第107回医師国家試験問題解説書.(分担執筆), 医学評論社, 東京, 2013.
4. 副島昭典: CBT こあかり 5 リ・コ 2013(分担執筆). 医学評論社, 東京, 2013.
5. 鈴木祥史, 須田健二, 松山幸枝, 寺田知新, 恵良聖一, 副島昭典: 水素水および還元薬剤を添加した透析液を用いたアルブミンの透析とその効果. 腎とフリーラジカル第11集, 東京医学社, 東京, 2013.
6. 副島昭典, 小池秀海, 石山陽事, 嶋津秀昭, 四倉正之, 飯田加奈恵, 三谷博子: 疾患への理解を深める病態生理学. 副島昭典, 小池秀海 編著, 東京医学社, 東京, 2013.

受賞, 報告書

1. 石田陽一, 副島昭典, 中村裕之, 飯田博行, 川端雅彦: 神通川流域におけるカドミウムによる近位尿細管機能異常に関する研究. 平成23年度イタイイタイ病及び慢性カドミウム中毒に関する総合的研究, 平成24年度環境省委託業務報告書, 2012.
2. 石田陽一, 中村裕之, 副島昭典, 川端雅彦, 供田

文宏, 金木潤: カドミウムによる近位尿細管機能異常ならびに慢性腎臓病に関する研究. 平成24年度環境省委託業務報告書, イタイイタイ病及び慢性カドミウム中毒に関する総合的研究, 2013.

3. 井田俊輔, 鈴木祥史, 須田健二, 副島昭典: 維持血液透析患者の血漿還元能を改善する透析液の開発. 杏林医学会学生リサーチ賞.

循環器病態生理学研究室

口演

1. 吉野秀朗¹, 佐藤徹¹, 四倉正之, 坂田好美¹, 副島京子¹ (¹杏林大・医・第二内科): 日常臨床における循環器 Q & A. 第27回府中市医師会循環器勉強会. 府中, 平成24年7月9日.
2. 四倉正之: 心電図の読み方. 三鷹市医師会学術講演会. 三鷹, 平成24年9月28日.
3. 吉野秀朗¹, 佐藤徹¹, 四倉正之, 坂田好美¹ (¹杏林大・医・第二内科): 日常臨床における循環器 Q & A. 第25回府中市医師会循環器勉強会. 府中, 平成24年11月9日.
4. 四倉正之: 心電図の読み方. 三鷹市医師会学術講演会. 三鷹, 平成24年11月30日.
5. 四倉正之: 心電図の読み方. 三鷹市医師会学術講演会. 三鷹, 平成25年1月24日.
6. 四倉正之: 心電図の読み方. 三鷹市医師会学術講演会. 三鷹, 平成25年2月22日.

病理学研究室

口演

1. 藪崎宏美¹, 椎名義雄¹, 熊谷朋子¹, 大河戸光章, 岡山香里, 藤井雅彦, 吉永陽樹², 福井正², 八田賢明³ (¹アイ・ラボ CytoSTD 研究所, ²フクイ産婦人科クリニック, ³ジュノ・ヴェスタクリニック八田): 「自己採取-液状化処理-ASC-USの鉄則遵守」の子宮頸がん細胞診成績. 第53回日本臨床細胞学会, 千葉, 平成24年6月2日.
2. 熊谷朋子¹, 藪崎宏美¹, 椎名義雄¹, 大河戸光章, 岡山香里, 藤井雅彦, 吉永陽樹², 福井正², 八田賢明³ (¹アイ・ラボ CytoSTD 研究所, ²フクイ産婦人科クリニック, ³ジュノ・ヴェスタクリニック八田): 子宮頸部液状化細胞診における「ASC-USの鉄則遵守」の重要性について. 第53回日本臨床細胞学会, 千葉, 平成24年6月2日.
3. 岡山香里, 大河戸光章, 熊谷朋子¹, 藪崎宏美¹, 吉永陽樹², 福井正², 藤井雅彦 (¹アイ・ラボ CytoSTD 研究所, ²フクイ産婦人科クリニック): HPV16型持続感染症例における子宮頸部細胞診 圧排二核細胞の出現様式. 第53回日本臨床細胞学会, 千葉, 平成24年6月2日.
4. 大河戸光章, 岡山香里, 熊谷朋子¹, 藪崎宏美¹, 吉永陽樹², 福井正², 藤井雅彦 (¹アイ・ラボ

CytoSTD 研究所,²フクイ産婦人科クリニック)
: HPV16 型持続感染症例における子宮頸部細胞
診 HPV integrated の有無. 第 53 回日本臨床細胞
学会, 千葉, 平成 24 年 6 月 2 日.

5. 佐藤徹¹, 富田泰彦¹, 赤木美智男², 大河戸光章
(¹杏林大・医・第二内, ²杏林大・医・医学教
育): 携帯電話を使った双方向性応答システム
による医学部の授業. 第 44 回日本医学教育学会,
横浜, 平成 24 年 7 月 27 日.
6. 林英里子, 宮尾実花, 小出采歩, 菅家彩加, 山本
寛, 大河戸光章, 藤井雅彦: Bodian 染色におけ
るプロテイン銀液の検討. 第 7 回日本臨床検査
学教育学会, 名古屋, 平成 24 年 8 月 23 日.
7. 山本寛, 林英里子, 菅家彩加, 小出采歩, 宮尾実
花, 大河戸光章, 藤井雅彦: 中枢神経系病理組
織染色における Bodian 染色用 silver protein の
検討. 第 1 回首都圏第 49 回関甲信医学検査学会,
横浜, 平成 24 年 11 月 4 日.
8. 岡山香里, 大河戸光章, 藤井雅彦, 熊谷朋子¹,
藪崎宏美¹, 吉永陽樹², 福井正², 八田賢明³ (¹
アイ・ラボ CytoSTD 研究所, ²フクイ産婦人科
クリニック, ³ジュノ・ヴェスタクリニック八田): 長期経過観察による ASC の細胞像の再検
証 2. ASC-H の核所見. 第 51 回日本臨床細胞学
会, 新潟, 平成 24 年 11 月 9 日.
9. 大河戸光章, 岡山香里, 藤井雅彦, 熊谷朋子¹,
藪崎宏美¹, 吉永陽樹², 福井正², 八田賢明³ (¹
アイ・ラボ CytoSTD 研究所, ²フクイ産婦人科ク
リニック, ³ジュノ・ヴェスタクリニック八田): 長期経過観察による ASC の細胞像の再検証
1.ASC-US と HPV 持続感染. 第 51 回日本臨床
細胞学会, 新潟, 平成 24 年 11 月 9 日.
10. 岡山香里, 大河戸光章, 熊谷朋子¹, 藪崎宏美¹,
藤井雅彦 (¹アイ・ラボ CytoSTD 研究所): SIL
の予測・経過観察に価値を有する HPV 感染所見.
第 25 回日本性感染症学会学術大会, 岐阜, 平成
24 年 12 月 8 日.
11. 大河戸光章, 岡山香里, 熊谷朋子¹, 藪崎宏美¹,
藤井雅彦 (¹アイ・ラボ CytoSTD 研究所):
HPV16 型の長期持続受診者における integration
率の経時的観察. 第 25 回日本性感染症学会学術
大会, 岐阜, 平成 24 年 12 月 8 日.

受賞, 特許等知的財産関係, 学会主催, 報告書

1. 林英里子, 菅家彩加, 小出采歩, 宮尾実花, 山本
寛, 大河戸光章, 藤井雅彦: 平成 24 年度杏林医
学会第 2 回学生トラベルアワード受賞.

その他

1. 林英里子, 菅家彩加, 小出采歩, 宮尾実花, 山本
寛, 大河戸光章, 藤井雅彦: Bodian 染色におけ
るプロテイン銀の検討. 杏林医学会誌, 44(1) 補
遺, 2013.

基礎理学療法学研究室

口 演

1. 一場友実, 宮川哲夫¹, 解良武士², 津田徹³, 國分
二三男⁴, 八並光信 (¹昭和大, ²日本医療科大,
³霧が丘つだ病院, ⁴昭和大藤が丘病院): 慢性閉
塞性肺疾患患者に対するリラクゼーション肢位
での呼吸介助併用効果と重症度との関連性. 第
47 回日本理学療法学術大会, 神戸, 平成 24 年 5
月 25-27 日.
2. 宮川哲夫¹, 一場友実 (¹昭和大): 体位排痰法.
埼玉県看護協会継続教育研修会, 埼玉, 平成 24
年 6 月 1 日, 21 日, 7 月 19 日.
3. 斎藤利恵, 八並光信, 丹羽正利, 芝原美由紀: 在
宅介護者の介護負担と睡眠の質について, 作業
療法学会, 宮崎, 平成 24 年 6 月 15-16 日.
4. 河野真^{1,4}, 石井博之⁴, 小泉裕一^{2,4}, 小檜山希^{3,4},
原口裕希⁴, 石本 馨⁴, 藤田賀子⁴, 春原るみ⁴, 石
井清志⁴, 三浦 和⁴, 栗原良子⁴ (¹杏林大学, ²埼
玉医科大学国際医療センター, ³帝京平成大学, ⁴
JOCV リハビリテーションネットワーク): 文化
の色合いが避難生活にもたらすもの～福島県二
本松市における福島第一原発事故避難者支援活
動報告～. 第 19 回多文化間精神医学会学術総会,
福岡, 平成 24 年 6 月 24 日.
5. 宮川哲夫¹, 一場友実 (¹昭和大): 慢性呼吸器疾
患患者のヘルスアセスメント. 日本赤十字看護
大学認定看護師教育課程慢性呼吸器疾患看護コ
ース, 東京, 平成 24 年 6 月 28 日.
6. 一場友実: 介護技術ステップアップ講座. 日本
社会福祉弘済会助成事業, 草津, 平成 24 年 7 月
25 日.
7. 宮川哲夫¹, 一場友実 (¹昭和大): 慢性呼吸器疾
患患者における呼吸リハビリテーション. 日本
赤十字看護大学認定看護師教育課程慢性呼吸器
疾患看護コース, 東京, 平成 24 年 8 月 7-8 日.
8. 芝原美由紀, 八並光信, 齊藤理恵, 牧田光代¹
(¹豊橋創造大学): 肢体不自由児の体育・スポー
ツ参加支援の検討. 第 59 回日本小児保健協会学
術大会, 岡山, 平成 24 年 9 月 27-29 日.
9. 牧田光代¹, 芝原美由紀, 栗生田博子², 蒔田寛子¹
(¹豊橋創造大学, ²新潟医療福祉大学): 障害児
のスポーツ参加と母親の気持ち. 母親支援のた
めの連携に向けて, 神戸, 第 5 回日本保健医療福
祉連携教育学会学術大会, 平成 24 年 10 月 7-8 日.
10. 石井清志¹, 石井博之¹, 河野真¹, 小檜山希^{1,2}, 藤
田賀子¹, 原口裕希¹, 2, 小泉裕一^{1,3}, 石本 馨¹,
春原るみ¹, 西本敦子¹, 三浦和¹ (¹JOCV リハビ
リテーションネットワーク, ²帝京平成大学, ³
埼玉医科大学国際医療センター): 理学療法士・
作業療法士による震災支援に関する一考察, 日
本災害復興学会 2012 年度, 福島, 平成 24 年 10
月 8 日.
11. 黒山祐貴¹, 宮川哲夫², 一場友実, 野口悠³, 廣田
聖⁴ (¹公立昭和病院, ²昭和大, ³昭和大学病院,

⁴ 茅ヶ崎徳州会総合病院) : 高頻度胸壁振動法を用いた咳嗽の有用性. 第21回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 福井, 平成24年11月23-24日.

12. Nodoka MIURA¹, Hiroyuki ISHII^{1,2}, Makoto KONO^{1,2,3}, Nozomi KOBIYAMA, Tomohito NOZAKI, Kumi KATO, Yuichi KOIZUMI, Mamiko KIKUCHI, Noriko HUIJITA (¹JOCV Rehabilitation Network, ²Kyorin Univ, ³Teikyo Univ) : Effectiveness of Rehabilitation Intervention with local hiring staff in support activities for victim of the Tohoku Earthquake - the collaboration with the AAR Japan, 1st CBR World Congress, India, Nov. 28th, 2012
13. 芝原美由紀 : 車椅子陸上に継続的に参加している肢体不自由児の現状と課題, 第14回日本リハビリテーション連携科学学会, 千葉, 平成25年3月9-10日.

講習会講師

1. 石井博之 : 羽村市サイクリング講習会, 自転車の魅力と運動効果, 5月20, 27日・6月3日.
2. 石井博之 : 八王子いちよう塾, 体を動かすということ～自分の体と末永く仲良く暮らすために～, 9月28日・10月5, 12, 19, 26日・11月2, 9, 16日.

論文

1. 宮川哲夫¹, 一場友実 (¹昭和大) : 排痰手技の再考. 理学療法学 39 (4) : 278-283, 2012.
2. 小泉裕一^{1,4}, 石井博之⁴, 小檜山希^{2,4}, 原口裕希^{2,4}, 石本馨⁴, 春原るみ⁴, 藤田賀子⁴, 石井清志⁴, 西本敦子⁴, 河野眞^{3,4} (¹埼玉医科大学国際医療センター, ²帝京平成大学, ³杏林大学, ⁴JOCV リハビリテーションネットワーク) : なぜ我々は継続的に福島県二本松市に通い続けることができたのか?—JOCV リハビリテーションネットワークによる東日本大震災被災者支援活動—. 埼玉県包括的リハビリテーション研究会雑誌 12 (1) : 51-55, 2012.
3. 一場友実 : 人工呼吸器からのウィーニングの結果における最大吸気圧, 気道閉塞圧と気道閉塞圧/最大吸気圧の評価. 理学療法ジャーナル 47 (3) : 272, 2013.
4. 石井博之 : パキスタン大地震における脊髄損傷者に対する管理とリハビリテーションから学ぶこと (文献抄録), 理学療法ジャーナル 47 (1) : 88, 2013.
5. 石井博之 : 高齢切断者における有酸素運動能力と歩行能力の関係性について (文献抄録), 理学療法ジャーナル 47 (4) : 364, 2013.

著書

1. 芝原美由紀 (分担) : ビジュアル実践リハ脳・神経系リハビリテーション監修潮見泰蔵 (第3章 小児神経疾患) 東京, 羊土社, 2012, p 250-285.
2. 石井博之 : ビジュアル実践リハ脳・神経系リハ

ビリテーション, 潮見泰蔵監修 (第4章 脊髄疾患) 羊土社.

その他

1. 石井博之 : JOCV リハビリテーションネットワークセミナー主催, 東京, 平成24年3月31日.
2. 石井博之 : 2011年度 JOCV リハビリテーションネットワーク代表.
3. 石井博之 : 羽村市ポタリングクラブ顧問.
4. 石井博之 : 東日本大震災復興ボランティア, 6月11日・12日・25日・26日・7月9日・10日・11月26日 (土)・27日・12月13日・14日・2月25日・26日・3月24日・25日.

運動障害系理学療法学研究室

口演

1. 村上幸士, 齋藤昭彦 : 腰痛の有無において比較した腹横筋の深部への変化, 第47回日本理学療法学会大会, 神戸, 平成24年5月25-27日.
2. 齋藤昭彦, 村上幸士 : マニュアルセラピー (腰椎). 理学療法科学学会, 東京, 平成24年7月1日.
3. 村上幸士, 吉川幸次郎¹ (¹関東リハビリテーション専門学校) : 臨床実習の教育方法に関する検討, 第25回教育研究大会, 平成24年8月22-24日.
4. 齋藤昭彦, 村上幸士 : マニュアルセラピー (頸椎), 理学療法科学学会, 東京, 平成24年9月9日.
5. 齋藤昭彦, 村上幸士 : 神経系モビライゼーション, 理学療法科学学会, 東京, 平成24年10月28日.
6. 村上幸士, 桜庭景植¹, 米澤郁穂² (¹順天堂大学大学院, ²順天堂大学医学部) : 腰痛の有無において比較した腹横筋の深部への変化～腹側および背側から撮像した超音波画像を用いて～, 第23回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 横浜, 平成24年11月3-4日.
7. 齋藤昭彦, 村上幸士 : 関節モビライゼーション (下肢), 理学療法科学学会, 東京, 平成24年12月2日.

論文

1. 村上幸士, 吉川幸次郎 : 臨床実習の教育方法に関する検討. リハビリテーション教育研究 18 : 211-212, 2012.

著書

1. 齋藤昭彦 : PT・OT 国家試験共通問題でるもん・でたもんー基礎医学ー, 東京, 医学書院, 2012.

神経発達障害系理学療法学研究室

口演

1. 潮見泰蔵 : 脳卒中患者に対する機能的運動課題達成のためのトレーニング戦. 第19回日本赤十字リハビリテーション協会研修会, 名古屋, 平

- 成 24 年 6 月 30-7 月 1 日。
2. 潮見泰藏：「理学療法士教育におけるコア・カリキュラム」日本理学療法士協会平成 24 年度教員研修会，平成 24 年 8 月 19 日。
 3. 潮見泰藏：脳卒中患者に対する基本的理学療法の進め方。東京，日本理学療法士協会主催理学療法士講習会，平成 24 年 9 月 16 日。
 4. 潮見泰藏：基本動作に対する理学療法。鹿児島，第 47 回日本理学療法士協会主催全国学術研修大会，平成 24 年 10 月 5 日。
 5. 潮見泰藏：専門教育水準。認定理学療法士必須研修会（教育管理系専門領域），日本理学療法士協会教育管理系専門領域研究部会，東京，平成 24 年 10 月 14 日。
 6. 潮見泰藏：脳卒中に対する課題指向型アプローチに基づく理学療法介入。平成 23 年度徳山医師会病院リハビリテーション病院研修会，徳山，平成 23 年 11 月 13 日。
 7. 潮見泰藏：脳卒中患者に対する課題指向型アプローチの理論と実際。理学療法科学学会，東京，平成 24 年 12 月 8-9 日。
 8. 潮見泰藏：専門教育水準。第 39 回理学療法士・作業療法士養成施設等教員講習会，東京，平成 25 年 1 月 9 日。
 9. 潮見泰藏：課題指向型アプローチ。日本理学療法士協会主催理学療法士講習会，前橋，平成 25 年 1 月 26 日。
 10. 潮見泰藏：脳卒中患者に対するエビデンスに基づく理学療法介入，平成 24 年度愛知県理学療法学会第 3 回研修会，名古屋，平成 25 年 2 月 10 日。
 11. 中野尚子：general movements(GMs) の評価分析について。GMs 研究会，東京，平成 24 年 6 月 30 日。
 12. 中野尚子：脳性麻痺児の理学療法，さいたま，平成 24 年 7 月 3 日。
 13. 中野尚子：正常発達 general movements(GMs) について。脳性麻痺 8 週間講習会，東京，平成 24 年 7 月 26 日。
 14. 中野尚子：理学療法と理学療法士の仕事について。上智大学言語聴覚研究センター，東京，平成 24 年 7 月 31 日。
 15. 中野尚子：脳性麻痺児の治療，脳性麻痺 8 週間講習会，東京，平成 24 年 8 月 9 日。
 16. 中野尚子：脳性麻痺児の治療，脳性麻痺 8 週間講習会，東京，平成 24 年 8 月 16 日。
 17. 中野尚子：新生児の評価 general movements (GMs)。理学療法士講習会「NICU における理学療法」。安曇野，平成 24 年 10 月 7 日。
 18. 中野尚子：新生児の理学療法—新生児の発達支援—。理学療法士講習会「NICU における理学療法」。安曇野，平成 23 年 10 月 7 日。
 19. 中野尚子：超・極低出生体重児における general movements (GMs) 評価と発達予後の関連性，杏林医学会，三鷹，平成 24 年 11 月 17 日。
 20. 中野尚子：「脳性まひ児の評価と治療」正常発達，日本理学療法士協会 理学療法士講習会，東京，平成 24 年 12 月 18 日。
 21. 中野尚子：小児理学療法，国立障害者リハビリテーションセンター，所沢，平成 25 年 1 月 15 日。
 22. 中野尚子：成人脳性麻痺の評価と治療，さいたまみずき園，さいたま，平成 25 年 3 月 12 日。
 23. 中野尚子：fidgety movements と発達予後の関連性について。GMs 研究会，東京，平成 25 年 3 月 14 日。
 24. 橋立博幸，長田けさ枝，森本頼子，澤田圭祐，柴田未里，井上智子，萩原恵未，笹本憲男：12 か月間の運動器機能向上プログラムによる筋力増強効果が 85 歳以上の要支援高齢者の歩行機能に及ぼす影響。第 47 回日本理学療法学会大会，兵庫，平成 24 年 5 月 27 日。
 25. 橋立博幸，島田裕之，古名丈人，潮見泰藏，笹本憲男：3 か月間の機能的トレーニングが 85 歳以上の要支援高齢者の身体機能に及ぼす効果。第 54 回日本老年医学会学術集会，東京，平成 24 年 6 月 28 日。
 26. 橋立博幸：高齢者が健やかに生活するための運動とリハビリテーション～介護の必要がない日常生活のために～。八王子学園都市大学いちよう塾，東京，平成 24 年 9 月 26 日，10 月 3 日，10 月 10 日。
 27. 橋立博幸，柴田未里，澤田圭祐，井上智子，萩原恵未，笹本憲男：脳梗塞右片麻痺を既往した地域在住高齢者の屋内生活空間に対する訪問リハビリテーションの介入効果。第 31 回関東甲信越ブロック理学療法士学会，埼玉，平成 24 年 9 月 16 日。
 28. 澤田圭祐，橋立博幸，柴田未里，井上智子，萩原恵未，笹本憲男：脳梗塞左片麻痺を既往し左大腿骨頸部骨折を発症した高齢者に対する訪問リハビリテーションが屋内生活空間に及ぼす影響。第 31 回関東甲信越ブロック理学療法士学会，埼玉，平成 24 年 9 月 16 日。
 29. 橋立博幸：高齢者における歩行能力向上のための効果的な運動介入。日本健康行動科学会第 11 回学術集会シンポジウム，東京，平成 24 年 10 月 6 日。
 30. 山本久美，池内貴美，橋立博幸，堀池典生：回復期リハビリテーション病棟の脳卒中者における入院時の会話可否が日常生活活動改善に及ぼす影響。リハビリテーション・ケア合同研究大会 in 札幌 2012，札幌，平成 24 年 10 月 12 日。
 31. 橋立博幸，原田和宏，浅川康吉，山上徹也，二瓶健司，吉井智晴，金谷さとみ：認知障害高齢者の行動・心理症状は在居場面で異なり介護負担と密接に関連する。第 71 回日本公衆衛生学会総会，山口，平成 24 年 10 月 26 日。
 32. 原田和宏，橋立博幸，浅川康吉，山上徹也，二瓶健司，吉井智晴，金谷さとみ：脳血管疾患を有す

る軽度認知障害高齢者における行動心理症状の有症割合の特徴. 第71回日本公衆衛生学会総会, 山口, 平成24年10月26日.

33. 浅川康吉, 橋立博幸, 原田和宏, 山上徹也, 二瓶健司, 吉井智晴, 金谷さとみ: MMSE23点以下の軽度認知障害高齢者は行動・心理症状(無為)が顕在化する. 第71回日本公衆衛生学会総会, 山口, 平成24年10月26日.
34. 二瓶健司, 橋立博幸, 原田和宏, 浅川康吉, 山上徹也, 吉井智晴, 金谷さとみ: 認知症を有する地域在住高齢者において自宅からの屋外外出に関連する生活機能因子. 第71回日本公衆衛生学会総会, 山口, 平成24年10月26日.
35. 金谷さとみ, 橋立博幸, 原田和宏, 浅川康吉, 山上徹也, 二瓶健司, 吉井智晴: 脳血管疾患を有する地域在住高齢者における軽度認知障害の有無と行動心理症状との関連. 第71回日本公衆衛生学会総会, 山口, 平成24年10月26日.
36. 吉井智晴, 橋立博幸, 原田和宏, 浅川康吉, 山上徹也, 二瓶健司, 金谷さとみ: 認知症高齢者における元気な表情の程度は重要な行動・心理症状を反映する. 第71回日本公衆衛生学会総会, 山口, 平成24年10月26日.
37. 藤澤祐基, 岡島康友, 高橋秀寿, 橋立博幸, 中野尚子, 潮見泰藏: 書字運動の特徴: 健常者と片麻痺者の書字運動とトレース運動. 第42回日本臨床神経生理学会学術大会, 東京, 平成24年11月8日.
38. 妹尾浩一, 安藤健太, 富岡純子, 橋立博幸: 障害者支援施設入所者における歩行機能と高次脳機能との関連. 身体障害者リハビリテーション研究集会2012, 東京, 平成24年11月16日.
39. Hashidate H, Harada K, Shiomi T, Nakano H, Fujisawa Y, Sasamoto N: The difference in effects of 3-month combined functional training on lower extremity muscle strength and gait performance in different times from stroke onset in community-dwellers with chronic hemiparesis. The 2nd Japan-Korea NeuroRehabilitation Conference, Japan, February 16. 2013.
40. Fujisawa Y, Okajima Y, Takahashi H, Hashidate H, Nakano H, Shiomi T: Characteristic difference in handwriting movement between subjects with hemiparesis and cerebellar ataxia. The 2nd Japan-Korea NeuroRehabilitation Conference, Japan, February 16. 2013.
41. 藤澤祐基, 岡島康友, 高橋秀寿, 橋立博幸, 中野尚子, 潮見泰藏: 書字運動の特徴: 健常者と片麻痺者の書字運動とトレース運動, 日本臨床神経生理学会, 東京, 平成24年11月9日.
42. Yuki Fujisawa¹, Yasutomo Okajima², Hidetoshi Takahashi², Hiroyuki Hashidate¹, Hisako Nakano¹, Taizo Shiomi¹ (¹Dept. of Physical Therapy, Faculty of Health Sciences, ²Dept. of

Rehabilitation Medicine, School of Medicine, Kyorin University): Characteristic difference in handwriting movement between subjects with hemiparesis and cerebellar ataxia, The 2nd Japan-Korea NeuroRehabilitation Conference, Okayama, 2013年2月16日.

論文

1. Hashidate H, Shimada H, Shiomi T, Shibata M, Sawada K, Sasamoto N.: Measuring indoor life-space mobility at home in frail older adults with difficulty to perform outdoor activities. J Geriatr Phys Ther. 2012 Sep 12. [Epub ahead of print].
2. 橋立博幸, 原田和宏, 浅川康吉, 山上徹也, 二瓶健司, 金谷さとみ, 吉井智晴: 認知障害高齢者の行動・心理症状に関する検討: 在居場面の違いによる差異. 日本公衛誌 59; 532-543, 2012.
3. 橋立博幸, 島田裕之, 潮見泰藏, 笹本憲男: 高齢者における筋力増強運動を含む機能的トレーニングが生活機能に及ぼす影響. 理学療法学 39; 159-166, 2012.
4. 橋立博幸: 在宅ケアの先進的取り組み—通所リハビリ—. Aging & Health 62; 24-25, 2012.

著書

1. 潮見泰藏: 1. リハビリテーションの対象となる脳・神経疾患の捉え方. 脳・神経系リハビリテーション, 潮見泰藏編集, 東京, 羊土社, 2012. p12-19.
2. 橋立博幸: パーキンソン病. ビジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション. 潮見泰藏編, 東京, 羊土社, 2012. p165-182.
3. 橋立博幸: 多発神経炎. ビジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション. 潮見泰藏編, 羊土社, 2012. p240-249.
4. 潮見泰藏: ニューロロジカルリハビリテーション. 潮見泰藏監訳, 東京, 医歯薬出版株式会社, 2012. p90-141.

受賞, 特許等知的財産関係, 学会主催, 報告書

1. 中野尚子: 行動発達研究会第11回研修会企画・主催, 京都, 平成24年12月8日

その他

1. 中野尚子: 「はいはいする子・しない子どう違う?」乳児の発達について解説, ひよこクラブ 平成24年8月号.

内部障害系理学療法学研究室

口演

1. 大森茂樹¹, 斎藤剛史¹, 三宅英司², 門馬博, 倉林準, 八並光信 (¹医療法人社団鎮誠会, ²医療法人社団永生会): 健常成人における体幹回旋動作と影響する因子の検討, 第47回日本理学療法学術大会, 兵庫, 平成24年5月25-27日.
2. 土居健次朗¹, 大森茂樹¹, 斎藤剛史¹, 栗原靖¹, 河原常郎¹, 三宅英司², 倉林準, 門馬博, 八並光信

- (¹医療法人社団鎮誠会,²医療法人社団永生会): 足部形態が歩行に与える影響 ~踵骨軌跡と COP 軌跡に着目~, 第 47 回日本理学療法学会大会, 兵庫, 平成 24 年 5 月 25-27 日.
3. 門馬博, 菅原憲一¹, 今中國泰² (¹神奈川保健福祉大,²首都大学東京大学院): 前腕肢位が手関節屈曲伸展運動イメージ中の神経活動に及ぼす影響. 第 20 回日本運動生理学会大会, つくば, 平成 24 年 7 月 28-29 日.
 4. 土居健次郎¹, 倉林準, 木村幸三², 内海恒亮² (¹医療法人社団鎮誠会,²株式会社アイウェアラボラトリー): INFOOT の原理と臨床への応用, 千葉整形外科画像研究会 (第 12 回), 千葉, 平成 24 年 10 月 11 日.
 5. 河原常郎¹, 倉林準, 大森茂樹¹, 門馬博, 八並光信 (¹医療法人社団鎮誠会): 矢状面における骨盤傾斜角度と歩行への影響, 第 39 回日本臨床バイオメカニクス学会, 千葉, 平成 24 年 11 月 9-10 日.
 6. 佐藤洋介¹, 大森茂樹², 齊藤剛史³, 三宅英司³, 門馬博, 倉林準, 八並光信 (¹東北福祉大学,²医療法人社団鎮誠会,³医療法人社団永生会): 体幹回旋動作の動作解析 ~体幹回旋動作と影響する因子の検討~, 第 39 回日本臨床バイオメカニクス学会, 千葉, 平成 24 年 11 月 9-10 日.
 7. 土居健次郎¹, 遠藤辰明¹, 大森茂樹¹, 倉林準, 八並光信 (¹医療法人社団鎮誠会): 足部構造と歩行動作の関係 - 足関節モーメントと COP 角に着目 -, 第 39 回日本臨床バイオメカニクス学会, 千葉, 平成 24 年 11 月 9-10 日.
 8. 河原常郎¹, 大森茂樹¹, 門馬博, 倉林準, 八並光信 (¹医療法人社団鎮誠会): 降段動作補助装置開発のための基礎研究 ~後進降段動作の三次元解析~, 第 16 回日本福祉工学会学術講演会, 千葉, 平成 24 年 12 月 1 日.
 9. 榎本理志¹, 大森茂樹¹, 土居健次郎¹, 倉林準, 八並光信 (¹医療法人社団鎮誠会): 病態のある靴作り基礎データの検討 ~変形性膝関節症重症度と外反母趾角度の関係について~, 第 16 回日本福祉工学会学術講演会, 千葉, 平成 24 年 12 月 1 日.
 10. 倉林準, 西田隆一郎¹, 三宅英司², 門馬博, 八並光信 (¹医療法人社団鎮誠会,²医療法人社団永生会): 変形性膝関節症を呈した歩行の特徴, ~靴づくり・インソールづくりのための基礎データ, 第 16 回日本福祉工学会学術講演会, 千葉, 平成 24 年 12 月 1 日.
 11. 土居健次郎¹, 遠藤辰明¹, 大森茂樹¹, 門馬博, 倉林準, 八並光信 (¹医療法人社団鎮誠会): 足部内側縦アーチ高からの歩行の推定 - 転倒予防ソックス開発に向けて -, 第 16 回日本福祉工学会学術講演会, 千葉, 平成 24 年 12 月 1 日.
 12. 倉林準: スポーツ医学の知恵を生活に, 杏林大学公開講演会, 八王子, 平成 24 年 11 月 26 日.
 13. 倉林準: 自ら起こす理学療法イノベーションの必要性, 第 30 回東北理学療法学会大会, 青森, 平成 24 年 11 月 17-18 日.
 14. 門馬博, 八並光信: 種類の異なる運動イメージ能力評価法の相互関係性に関する検討. 第 4 回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会, 岡山, 平成 25 年 2 月 17 日.
 15. 門馬博: 電気刺激を応用したリハビリテーションの新しい波. 平成 24 年度福祉用具適合講習会第 2 回南多摩福祉機器展, 八王子, 平成 25 年 3 月 17 日.
- ### 論文
1. 小泉裕一¹, 小檜山希^{1,2}, 原口裕希¹, 石本馨^{1,3}, 春原み^{1,4}, 藤田賀子^{1,5}, 石井博之¹, 石井清志^{1,7}, 西本敦子^{1,8}, 河野眞¹ (¹JOCV リハビリテーションネットワーク,²帝京平成大,³日本福祉大,⁴長野医療技専,⁵日本医大病院,⁷難民を助ける会,⁸慶應大): なぜ我々は継続的に福島県二本松市に通い続けることができたのか? - JOCV リハビリテーションネットワークによる東日本大震災被災者支援活動 -. 埼玉県包括的リハビリテーション研究会雑誌 12(1): 51-55. 2012.
 2. 阿志賀大和¹, 阿部沙織², 原口裕希, 須藤崇行³, 金子雄太⁴, 山村千絵⁵ (¹明倫短大,²総合高津中央病院,³介護老人保健施設栗の郷,⁴亀田第一病院,⁵新潟リハビリテーション大): 口唇の開閉状態が至適 1 回嚥下量に与える影響. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会誌 16(3): 283-289. 2012.
- ### 著書
1. 八並光信: 造血幹細胞移植 (HSCT) 患者に対する柄胃での身体トレーニングの効果 - 無作為化臨床試験 - (文献抄録), 東京, 医学書院, 2013, vol.47 (1), p.88.
 2. 八並光信: 根治的前立腺切除術を受けた高齢患者に対する 12 週間の複合運動介入後の総合的な運動能力の回復. QOL と尿禁制について - ランダム化比較試験 - (文献抄録), 東京, 医学書院, 2013, vol.47 (5), p.462.
- ### その他
1. 八並光信: NPO 法人 東京都多摩リハビリ・ネットワーク 理事.

精神保健学研究室

口演

1. 田島治: 双極性障害概念の拡大と薬物治療を巡る問題, 東京精神神経科診療所協会例会, 東京, 平成 24 年 4 月 14 日.
2. 田島治: 気分・不安障害薬物療法最適化するには 治療を開始する前に考えるべきこと, 伝えるべきこと, 第 108 回日本精神神経学会学術総会, 札幌, 平成 24 年 5 月 24 日.
3. 田島治: うつ病の方の対応に悩む支援者のため

に 病気の理解と関わり方, 府中小金井保健所講演会, 東京, 平成 24 年 6 月 6 日.

4. 田島治: 双極性障害の診断と治療の動向, 第 86 回石川県神経科精神科医学学術講演会特別講演, 金沢, 平成 24 年 6 月 14 日.
5. 田島治: うつ病治療の工夫-新たな試みの位置付けを探る-減薬・断薬, 第 9 回日本うつ病学会総会, 東京, 平成 24 年 7 月 28 日.
6. 田島治: うつ病の薬物療法の留意点, 第 9 回日本うつ病学会総会, 東京, 平成 24 年 7 月 28 日.
7. 田島治: 身近な人がうつ病になったら-病気の理解と関わり方-, 調布市社会福祉協議会主催平成 24 年度こころの健康講演会, 東京, 平成 24 年度 9 月 26 日.
8. 田島治: 現代のうつ病, 小金井市社会福祉協議会主催平成 24 年度精神保健福祉ボランティア養成講座講演会, 東京, 平成 24 年 11 月 17 日.
9. 田島治: 遷延した気分障害の診断と治療-Bipolarity の視点から, 岩手県北精神医学会講演会, 二戸, 平成 24 年 11 月 21 日.
10. Tajima O: SNRI-the benefits from Japanese experience, Kwai Chung Hospital, Hospital Lecture, Hong Kong, Dec. 12. 2012.
11. Tajima O: SNRI-the benefits from Japanese experience, The Macau College of Psychiatrists, Macau Lecture, Macau, Dec. 12. 2012.
12. Tajima O: Japanese experience with dual-action antidepressants, The Hong Kong College of Psychiatrists, Dinner Lecture, Hong Kong, Dec.13. 2012.
13. 田島治: こころの病気, 障がいとは, 三鷹市社会福祉協議会主催平成 24 年度メンタルヘルスボランティア講座講演会, 東京, 平成 25 年 1 月 19 日.
14. 田島治: 過量服薬・大量服薬 処方薬依存の視点から, 第 2 回自殺予防対策講演会, 東京, 平成 25 年 2 月 26 日.

論文

1. 田島治: 不安障害の診断・治療の動向. 分子精神医学 12:308-310, 2012.
2. 辻敬一郎, 田島治: 不安と抑うつメカニズム. Depression Strategy 2:4-6, 2012.
3. 辻敬一郎, 田島治: 新規抗うつ薬の有害作用-賦活症候群を含む情動面および行動面の変化を中心に. 医学のあゆみ 244:386-390, 2013.
4. 田島治: 向精神薬のマーケティングの影響. 臨床精神医学 42: 191-197, 2013.
5. 辻敬一郎, 田島治: 抗うつ薬と自殺. Current Insights in Neurological Science 19・20:16-17, 2013.

著書

1. 田島治: 躁うつ病の薬物療法. 躁うつ病はここまでわかった第 2 版. 加藤忠史 不安・抑うつ臨床研究会編, 東京, 日本評論社, 2012. p.25-53.

2. 辻敬一郎, 田島治: プライマリ・ケアにおけるミルタザピンの使い方. ミルタザピンのすべて. 小山司, 樋口輝彦編. 東京, 先端医学社, 2012. p.128-133.
3. 田島治: 精神疾患と脳, 治療法, 電気けいれん療法. 精神看護学Ⅱ精神臨床看護学第 5 版. 川野雅資編, 東京, ニューヴェルヒロカワ, 2012. p.233-256. IV.

その他

1. 田島治: 社会(社交)不安障害. 朝日新聞夕刊健康欄「体とこころの通信簿」で解説, 朝日新聞, 平成 24 年 7 月 23 日.
2. 田島治: 冬のうつ. ラジオ健康情報番組「明日も元気」で解説, TBS ラジオ, SBS ラジオ, CBC ラジオ, 平成 24 年 12 月 3-7 日.

母子保健学研究室

口演

1. 加藤英世: 軽度発達障害児のアセスメントと, その評価. 区立中学校教員研究会 世田谷区立上祖師谷中学校. 東京. 平成 24 年 5 月 30 日.
2. 加藤英世: 知的障害児の問題行動とその関わりについて. 都立特別支援学校教員研修会 都立小金井特別進学校, 小金井. 平成 24 年 6 月 4 日.
3. 加藤英世: 学校管理下の事故予防と対応. 八王子市立小学校教職員研修会 市立第九・北小学校. 八王子. 平成 24 年 6 月 8 日.
4. 岩見文博, 楠田美奈, 照屋浩司, 片桐朝美, 太田ひろみ, 石野晶子, 大嶺智子, 加藤英世: 幼児の成長および生活習慣と骨量獲得との関連について. 第 71 回日本公衆衛生学会. 山口. 平成 24 年 10 月 25 日.
5. 石野晶子, 加藤英世, 松田博雄, 太田ひろみ, 養護教諭の HPV ワクチンに関する認識と健康教育に関する研究. 山口. 24 年 10 月 25 日.
6. 古橋晃一, 大塚絢子, 加藤英世, 石野晶子, 太田ひろみ, 酒井順子, 高橋衣純, 田邊郁恵, 高塩綾: 幼児・学童の足底円蓋形成の経年変化とその関連要因に関する研究. 第 59 回日本学校保健学会. 神戸. 平成 24 年 11 月 10 日.
7. 大塚絢子, 加藤英世, 石野晶子, 古橋晃一: 「養護教諭一種免許状」取得のための講義科目の検討. 第 59 回日本学校保健学会. 神戸. 平成 24 年 11 月 10 日.
8. 加藤英世: 特別支援学校小学部における発達の課題. 都立特別支援学校教員研修会 都立小金井特別進学校, 小金井. 平成 24 年 12 月 6 日.

論文

1. 石野晶子, 加藤英世, 松田博雄: 医師の HPV ワクチン接種に関する認識と HPV ワクチン接種の現状. 保健の科学. Vol54. NO8. 569-573. 2012.
2. 石野晶子, 加藤英世, 松田博雄: 養護教諭の HPV ワクチンの関する認識と健康教育に関する研究. 保健の科学. Vol54. NO12. 849-855. 2012.

- 石野晶子, 加藤英世, 松田博雄: 病児保育を利用する保護者のニーズとワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和). 小児保健研究. VOL72.NO2.2013.

運動器障害作業療法学研究室

口 演

- 森田千晶: 知って・選んで・使える 福祉用具講座, 八王子学園都市大学いちよう塾, 八王子, 2012年6月28日, 7月5・12・19日.
- 森田千晶: 臨床で役に立つ義肢装具の基礎知識, 第1回復興支援講習会 in 盛岡, 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会, 盛岡, 2月2・3日.
- 望月秀樹, 森田千晶, 大嶋伸雄¹, 繁田雅弘¹, (¹首都大学東京大学院 人間健康科学研究科): 要支援高齢者の介護予防における動機付けの分析—Maslowの基本的欲求を用いての検討—. 第46回日本作業療法学会, 宮崎, 平成24年6月15日.
- 望月秀樹: 豊かな高齢期を迎えるための介護予防と認知症予防～正しい理解と実践方法～, 八王子学園都市大学いちよう塾, 八王子, 2012年10月11・18日.
- 望月秀樹: 整形外科疾患へのアプローチ(肩関節運動のみかた). 366リハビリテーション病院研修会, 府中, 平成24年10月16日, 11月13日.
- 望月秀樹: 老年学. 機能訓練指導員養成講習会, 大阪, 平成25年3月17・24日.

論 文

- 望月秀樹, 森田千晶, 原田祐輔, 下田信明, 大嶋伸雄¹, (¹首都大学東京大学院 人間健康科学研究科): わが国の要支援高齢者の介護予防における問題点について—身体的要因, 社会・環境要因, 心理的要因の関連性の検討から—. PT-OT-ST Channel Online Journal Vol.1 No.5 A3, 2012.

著 書

- 森田千晶: 義肢装具メーカーでの勤務経験. 福祉介護テクノプラス7月号. 東京, 日本工業出版, 2012. p. 5~8.
- 森田千晶: 国家試験模試専門問題義肢装具・福祉用具. 東京. 三輪書店. 2012.

受賞, 特許等知的財産関係, 学会主催, 報告書

- 森田千晶: 乗馬リハビリテーション研究会平成24年度秋の勉強会・開催, 神奈川, 平成24年10月13日.
- 望月秀樹: 日本自立支援介護学会第6回学術大会企画・開催, 東京, 平成24年5月19・20日.
- 望月秀樹: 第12回パワーリハビリテーション学術大会企画・開催, 東京, 平成25年3月9・10日.

認知障害作業療法学研究室

口 演

- 下田信明: 障がいを持つ人の生活とリハビリテーション・作業療法. 八王子学園都市大学いちよう塾, 八王子. 平成24年4月17・24日・5月8・15・22日.
- 下田信明: 脳卒中上肢・手の機能障害へのアプローチ. 366リハビリテーション病院研修会, 府中, 平成24年5月24日.
- 河野真: 東北に笑顔を～協力隊経験者だからこそ出来る支援活動. 協力隊を育てる会第37回通常総会報告会, 東京, 平成24年5月24日.
- 下田信明: 私の臨床研究の経験. 366リハビリテーション病院研修会, 府中, 平成24年6月7日.
- 下田信明: 障がいを持つ人の生活とリハビリテーション・作業療法. 啓明学園高等学校模擬講義, 昭島, 平成24年6月11日.
- 藤田賀子, 石本馨, 石井清志, 栗原良子, 河野真: JOCVリハビリテーションネットワークによる東日本大震災後の支援活動—福島県二本松の避難所の活動を通してOTの災害支援を考える—. 第46回日本作業療法学会, 宮崎, 平成24年6月15日.
- 河野真, 石井清志, 藤田賀子, 菊池隆一郎, 中村賢二: 国際協力NGOとの協働を通じた東日本大震災被災者支援活動. 第46回日本作業療法学会, 宮崎, 平成24年6月15日.
- 河野真: ある作業療法士の転がり方～15年目でこんなになっちゃいました. 佛教大学 平成24年度セラピストとして働く②, 京都, 平成24年6月21日.
- 河野真, 小檜山希, 藤田賀子, 原口裕希, 石井清志, 小泉裕一, 石本馨, 春原るみ, 西本敦子, 石井博之: 文化の色合いが避難生活にもたらすもの～福島県二本松市における福島第一原発事故避難者支援活動報告～. 第19回多文化間精神医学会学術総会, 福岡, 平成24年6月24日.
- 河野真: ある作業療法士の発達を見る視点は幼稚園教諭との協働を経てどう変化したか?～N市5歳児発達相談での2年間の経過から～. 第19回多文化間精神医学会学術総会, 福岡, 平成24年6月24日.
- 下田信明: 右半側空間無視の臨床経験. 366リハビリテーション病院研修会, 府中, 平成24年7月19日.
- 河野真: CBRガイドライン「社会コンポーネント」要点共有. 日本から世界へ～日本の地域実践例をCBRマトリックスで読み解きます. 平成24年度JANNET研究会第1回コミュニティにおけるインクルーシブ開発検討会, 東京, 平成24年8月25日.
- 下田信明: 高次脳機能障害のリハビリテーションとNIRS. 第17回認知神経科学学会学術集会シ

- ンポジウム.
14. 「機能画像とリハビリテーション」, 東京, 平成 24 年 9 月 29 日.
 15. 石井清志, 河野眞, 小檜山希, 藤田賀子, 原口裕希, 小泉裕一, 石本馨, 春原るみ, 西本敦子, 石井博之, 三浦和: 理学療法士・作業療法士による震災支援に関する一考察, 日本災害復興学会 2012 年度, 福島, 平成 24 年 10 月 8 日.
 16. 河野眞: タジキスタン共和国における障害当事者団体の能力強化支援報告. 第 27 回日本国際保健医療学会学術大会, 岡山, 平成 24 年 11 月 4 日.
 17. 鈴木健太郎: 地域における高次脳機能障害関連の支援活動, 東京都作業療法士学会, 東京, 平成 24 年 11 月 4 日.
 18. 野崎智仁, 河野眞: 東日本大震災後におけるリハビリの活動効果～宮城県東松島市での取り組みの報告～. 第 16 回日本健康福祉政策学会, 東京, 平成 24 年 11 月 17-18 日.
 19. Kono M, Koizumi Y, Sunohara R, Ishimoto K: Re-building Community After Disaster-Activity Report on Response for the Japan Quake by JOCV Rehabilitation Network, 1st CBR World Congress, India, Nov. 27th, 2012.
 20. Miura N, Kono M, Kobiyama N, Nozaki T, Ishii H, Kato K, Koizumi Y, Kikuchi M, Hujita N: Effectiveness of Rehabilitation Intervention with local hiring staff in support activities for victim of the Tohoku Earthquake - the collaboration with the AAR Japan, 1st CBR World Congress, India, Nov. 28th, 2012.
 21. 河野眞: CBR ガイドライン「保健コンポーネント」要点共有. 日本から世界へ～日本の地域実践例を CBR マトリックスで読み解きます. 平成 24 年度 JANNET 研究会第 2 回コミュニティにおけるインクルーシブ開発検討会, 東京, 平成 24 年 12 月 8 日.
 22. 鈴木健太郎: リハビリテーション医療の基礎理解, 千葉県介護職員 FB 研修会, 東金, 平成 24 年 12 月 9 日.
 23. 河野眞: 発達障害の子を持つ親への対応. 栃木県総合教育センター 平成 24 年度電話相談全体研修, 宇都宮, 平成 25 年 2 月 2 日.
 24. 鈴木健太郎: 不器用ってどんなことから起こるの, 品川区保護者講座, 東京, 平成 25 年 2 月 8 日.
 25. Kono M: Community-Based Rehabilitation. Seminar of Bahdat Rehabilitation Center for Disabled Children, Tajikistan, Feb.19th, 2013.
 26. Kono M: Occupational Therapy for Children with Cerebral Palsy. Seminar of Bahdat Rehabilitation Center for Disabled Children, Tajikistan, Feb.20th, 2013.
 27. Kono M: Occupational Therapy for Children with Cerebral Palsy. Seminar of Hojand Physiotherapy Hospital, Tajikistan, Mar.18th, 2013.

28. 河野眞: リハ職はこの 30 年間途上国で何をやってきたのか?～今後 10 年を突くものとするために. 2012 年度 JOCV リハビリテーションネットワークセミナー, 東京, 25 年 3 月 31 日.

論文

1. 下田信明, 武田湖太郎, 加藤宏之: 高次脳機能障害のリハビリテーションと Near-infrared Spectroscopy. 認知神経科学 14:163-167, 2013.
2. 石井利幸, 小賀野操, 下田信明: アルツハイマー型認知症者のお茶入れ遂行中に見られた誤反応パターンの分析. 作業療法 31:409-414, 2012.
3. 望月秀樹, 森田千晶, 原田祐輔, 下田信明, 大嶋伸雄: わが国の要支援高齢者の介護予防における問題点について—身体的要因, 社会・環境要因, 心理的要因の関連性の検討から—. PT-OT-ST Channel Online Journal Vol.1, 2012.
4. 小泉裕一, 小檜山希, 原口裕希, 石本馨, 春原るみ, 藤田賀子, 石井博之, 石井清志, 西本敦子, 河野眞: なぜ我々は継続的に福島県二本松市に通い続けることができたのか?—JOVC リハビリテーションネットワークによる東日本大震災被災者支援活動—. 埼玉県包括的リハビリテーション研究会雑誌 12: 51-55, 2012.

受賞, 特許等知的財産関係, 学会主催, 報告書

1. 下田信明: 日本在宅ケア学会平成 24 年度公開講座企画・開催, 東京, 平成 24 年 11 月 17 日.
2. 下田信明: 日本在宅ケア学会平成 24 年度公開講座企画・開催, 水戸, 平成 25 年 3 月 9 日.
3. 河野眞: 日本障害者リハビリテーション協会 2012 年度 CBR セミナー「CBR vs 三方よし」企画・開催, 東京, 平成 24 年 10 月 13 日.
4. 河野眞: 2012 年度 JOCV リハビリテーションネットワークセミナー企画・開催, 東京, 平成 25 年 3 月 31 日.
5. 鈴木健太郎: NPHC 研究会公開研究会企画・開催, 東京, 平成 24 年 11 月 10 日.
6. 鈴木健太郎: 日本建築学会建築計画委員会高齢者・障害者等居住小委員会平成 24 年度公開講座企画・開催, 東京, 平成 25 年 2 月 19 日.

その他

1. 河野眞: 「ふくしま絆づくり FM」リハ専門職としての被災地支援に関する報告, FM モットコム, 平成 25 年 3 月 7 日.

中枢神経障害作業療法学研究室

口演

1. 村松憲¹, 上村孝司¹, 丹羽正利, 永井正則², 石黒友康¹ (¹健康科学大・理学療法, ²山梨県環境科学研究所・環境健康研究部環境生理学): 糖尿病に起因する運動ニューロンの障害. 第 47 回日本理学療法士学術大会, 神戸, 平成 24 年 5 月 25-27 日.
2. 齋藤利恵, 小橋一雄¹, 丹羽正利, 望月秀樹²,

- 八並光信³ (¹ 飯能リハビリ館, ² 杏林大・保・運動器障害作業療法, ³ 杏林大・保・内部障害系理学療法): 在宅介護者の介護負担感がもたらす心理社会的影響について. 第46回日本作業療法学会, 宮崎, 平成24年6月16日.
3. 芝原美由紀¹, 牧田光代², 八並光信³, 齋藤利恵, 小島匡⁴ (¹ 杏林大・基礎系理学療法, ² 豊橋創造大学・理学療法, ³ 杏林大・内部障害系理学療, ⁴ 横浜市リハビリテーション事業団障害者スポーツ文化センターラポール): 肢体不自由児の体育・スポーツ参加支援の検討. 第59回日本小児保健協会学術集会, 岡山, 平成24年9月29日.
 4. 佐々木誠一¹, 佐々木一正², 丹羽正利 (¹ 茨城県立医療大・医科学センター, ² 東京医科大学霞ヶ浦看護専門学校): Activity patterns of respiratory neurons during defecation. 第35回日本神経科学大会, 名古屋, 平成24年9月18-21日.
 5. 村松憲¹, 石黒友康¹, 丹羽正利, 上村孝司¹, 永井正則², 佐々木誠一³ (¹ 健康科学大・理学療法, ² 山梨県環境科学研究所・環境健康研究部環境生理学, ³ 茨城県立医療大・医科学センター): Sustained hyperglycemia decreases the volume of motor nucleus of medial gastrocnemius. 第35回日本神経科学大会, 名古屋, 平成24年9月18-21日.
 6. 村松憲¹, 丹羽正利, 石黒友康¹, 佐々木誠一² (¹ 健康科学大・理学療法, ² 茨城県立医療大・医科学センター): 糖尿病ラットの内側腓腹筋を支配する運動ニューロンの形態変化. 第59回中部日本生理学会, 岡崎, 平成24年11月16日.
 7. 佐々木誠一¹, 佐々木一正², 丹羽正利 (¹ 茨城県立医療大・医科学センター, ² 東京医科大学霞ヶ浦看護専門学校): 排便反射時における呼吸ニューロンの活動様式. 第40回自律神経生理研究会, 東京, 平成24年12月1日.
 8. 齋藤利恵, 八並光信¹, 芝原美由紀², 丹羽正利 (¹ 杏林大・内部障害系理学療法, ² 杏林大・基礎系理学療法): 在宅における介護と睡眠の関連性について— Actigraph を用いた睡眠分析—. 第45回日本運動障害研究会, 東京, 平成25年1月26日.
 9. 芦川聡宏¹, 村松憲¹, 齋藤利恵, 石黒友康¹, 佐々木誠一², 丹羽正利 (¹ 健康科学大・理学療法, ² 茨城県立医療大・医科学センター): 末梢神経損傷によって生じる運動ニューロンの形態変化. 第45回日本運動障害研究会, 東京, 平成25年1月26日.
 10. 村松憲¹, 丹羽正利, 石黒友康¹, 長谷川達也², 佐々木誠一³ (¹ 健康科学大・理学療法, ² 山梨県環境科学研究所・環境健康研究部環境生理学, ³ 茨城県立医療大・医科学センター): 糖尿病によって生じる錐内筋線維の変性. 第45回日本運動障害研究会, 東京, 平成25年1月26日.
 11. 村松憲¹, 丹羽正利, 石黒友康¹, 長谷川達也², 佐々木誠一³ (¹ 健康科学大・理学療法, ² 山梨県環境科学研究所・環境健康研究部環境生理学, ³ 茨城県立医療大・医科学センター): Diabetic polyneuropathy target gamma motoneurons of the gastrocnemius muscle in STZ rats. 第90回日本生理学会, 東京, 平成25年3月28日.
- ### 論文
1. Muramatsu K¹, Niwa M, M Nagai², Kamimura T¹, Sasaki S³, Ishiguro T¹ (¹Physical Therapy, Health Science University, ²Environmental Physiology, Yamanashi Institute of Environmental Sciences, ³Center for Medical Sciences, Ibaraki Prefectural University of Health Sciences): The size of motoneurons of the gastrocnemius muscle in rats with diabetes. *Neurosci Lett* 531: 109–113, 2012.
 2. 村松憲¹, 石黒友康¹, 丹羽正利, 上村孝司¹, 永井正則², 佐々木誠一³ (¹ 健康科学大・理学療法, ² 山梨県環境科学研究所・環境健康研究部環境生理学, ³ 茨城県立医療大・医科学センター): 慢性的な高血糖によって誘発される運動ニューロン障害. *運動障害研究会誌* 22(1): 1-4, 2012.
 3. Fukaya T¹, Mutsuzaki H², Saito R, Wadano Y² (¹ Physical Therapy, Tsukuba International University, ² Orthopedic Surgery, Ibaraki prefectural University of Health Sciences): Reproducibility of knee movement analyses during the stance phase using the anatomical landmarks calibration. *J.Phys.Ther.Sci* 24: 485-489, 2012.
 4. 齋藤利恵: 3次元加速度装置 Actigraph™ および自覚症しらべを用いた在宅介護者の介護負担の予測 *日本生理人類学会誌* 17(4):175-184, 2012.
- ### 著書
1. 佐々木誠一, 丹羽正利, 井草幸夫, 宇賀美奈子, 飯塚眞喜人, 村松憲: 生理学要点生理ノート改訂版第2版, 東京, 羊土社, 2013. 第4章神経系 p.35-66.